

〈特集「他動性」「連用修飾的複文」「情報構造と名詞述語文」「情報標示の諸要素」他〉

スワヒリ語：

特集補遺データ「他動性」「連用修飾的複文」「情報構造と名詞述語文」
「情報標示の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」

Swahili:

‘Transitivity’, ‘Complex sentences of adverbial modification’,
‘Information structure and nominal predicate sentences’, ‘Markers of information structure’
and ‘Negation, adjectives, and complex sentences of adnominal modification’

宮崎 久美子, 米田 信子
Kumiko Miyazaki, Nobuko Yoneda

大阪大学大学院人文学研究科
Graduate School of Humanities, Osaka University

要旨：本稿は、特集補遺「他動性」「連用修飾的複文」「情報構造と名詞述語文」「情報標示の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」（『語学研究所論集』第19–23号，2014–18，東京外国語大学）にスワヒリ語（ニジェール・コンゴ語族）のデータを寄与するものである。

Abstract: This report aims to contribute Swahili data to the supplemental issues focusing on ‘Transitivity’, ‘Complex sentences of adverbial modification’, ‘Information structure and nominal predicate sentences’, ‘Information structure and nominal predicate sentences’, ‘Markers of information structure’, and ‘Negation, adjectives and complex sentences of adnominal modification’ (*Journal of the Institute of Language Research* 19–23, 2014–2018, Tokyo University of Foreign Studies).

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002001489>

キーワード：スワヒリ語，バントゥ諸語，アフリカ，言語類型論，対照言語学

Keywords: Swahili, Bantu languages, Africa, linguistic typology, contrastive linguistics

1. はじめに

本稿では、『語学研究所論集』第19–23号(2014–2018年)の5つの特集テーマに関するスワヒリ語のデータを報告する。スワヒリ語は、バントゥ諸語¹の1つであり、ケニア、タンザニア、ルワンダ、ウガンダの公用語の1つに定められている他、東アフリカの共通語として機能している。話者数は、第一言語話者は約16,000,000人程度と言われているが（Eberhard et al. 2022: 300）第二言語や第三言語としての話者を含めるとその何倍にもなる。広く普及していることからバリエーションも多く見られるが、本稿ではタンザニアで話されている「標準スワヒリ語（*Kiswahili sanifu*）」と呼ばれているものを扱う。調査協力者はタンザニア北部に位置するマニャラ県生まれのスワヒリ語母語話者I.Z氏(1982年生れ)である。第2節で本稿の前提となるスワヒリ語文法の説明、第3節で「他動性」、第4節で「連用修飾的複文」、第5節で「情報構造と名詞述語文」、第6節で「情報標示の諸要素」、第7節で「否定、形容詞と連体修飾複文」についてそれぞれ報告する。なお本稿の研究はJSPS科研費の助成を受けている（課題番号：



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ ニジェール・コンゴ語族に属する最大の言語群。その数は500–600（Hammarström 2019: 18, 米田他 2012: 151, 米田 2022: 201 他）と言われ、アフリカ大陸赤道以南に広く分布する。

19K00604, 23K00501, 24K03838) .

2. スワヒリ語の基礎的文法事項

各テーマのデータを示す前に、それらのデータを見ていくにあたって前提となる文法事項について説明する。

スワヒリ語には、バントゥ諸語の特徴である「名詞クラス」²と呼ばれる名詞の分類とそれを基盤とする文法呼応システムがある。スワヒリ語には 15 種類の名詞クラスがある。名詞が属しているクラスは名詞語幹の前に付される名詞クラス接頭辞によって示される。名詞修飾語には、主名詞が属するクラスに一致した接頭辞が付く。

- (1) a. m-koba m-zuri 「良いかばん」
3-bag 3-good
b. ma-chungwa ma-zuri 「良いオレンジ」
6-oranges³ 6-good
c. ki-kombe ki-zuri 「良いコップ」
7-cup 7-good

直説法の動詞は以下のように構成される。

- (2) 主語接辞—TA 接辞— (目的語接辞—) 動詞語根 (—派生接辞) —末尾辞
tu- na- wa- andik -i -a > tunawaandikia
1PL- PRS- 3PL- write -APPL -FV
「私たちは彼らに (手紙を) 書いている」

主語接辞 (SM) と目的語接辞 (OM) は、それぞれ主語名詞と目的語名詞が属している名詞クラスに一致した形で現れる呼応接辞である。主語名詞や目的語名詞が文中に現れない場合は、これらの接辞はそれぞれ主語名詞と目的語名詞を指す代名詞として機能する。主語接辞は直説法において動詞を構成する必須要素だが、目的語接辞は目的語が有生名詞の場合にのみ必須であり、それ以外の場合はオプションである。動詞語根と主語接辞の他、テンス・アスペクト (TA) 接辞と末尾辞 (FV) が動詞を構成する必須要素である。ただし現在時制否定形は TA 接辞はゼロ (グロスには \emptyset を省略) になる。また末尾辞がつくのはバントゥ語源の動詞 (不定形の末尾が *-a* のもの) だけであり、それ以外の動詞にはつかない。これは直説法に限らず、命令法や接続法においても同様である。

² バントゥ諸語の名詞クラスには比較研究のためにバントゥ祖語に基づいて一定の順番で番号が付けられており、バントゥ諸語研究では一般的にその番号で名詞クラスを表す。名詞に付しているのがその名詞が属する名詞クラス、それ以外に付している番号は一致する名詞クラスを示している。

³ 名詞語幹には単複の意味は含まれておらず、その単語が単数形か複数形かを決定するのは名詞クラス接頭辞のほうである。したがって厳密には *chungwa* という名詞語幹が 'oranges' という複数形の意味を持っているわけではない。しかしながら本稿では、単複の区別を読者に明示するために、名詞が複数形の場合には語幹のグロスでそれを示すことにする。

- (3) a. M-koba u-li-anguk-a. 「カバンが落ちた。」
3-bag SM3-PST-fall-FV
b. Ma-chungwa ya-li-anguk-a. 「オレンジが落ちた。」
6-oranges SM6-PST-fall-FV
- (4) a. Ki-kombe ki-li-vunj-ik-a. 「コップが割れた。」
7-cup SM7-PST-break-STT-FV
b. Ki-li-vunj-ik-a. 「それ（コップを指す）が割れた。」
SM7-PST-break-STT-FV
- (5) a. M-sichana a-li-wa-on-a wa-talii 「少女は観光客たちを見た。」
1-girl SM1-PST-OM2-see-FV 2-tourists
b. Wa-talii wa-li-on-a m-lima. 「観光客たちは山を見た。」
2-tourists SM2-PST-see-FV 3-mountain

3. 「他動性」（語研論集 第19号）

ここではスワヒリ語の他動性のデータを示す。

6-1 【直接影響・変化】

6-1-a 彼はそのハエを殺した。

- (6) A-li-m-u-a nzi huyo.
SM3SG⁴-PST-OM1-kill-FV 1.fly 1.that
「彼はそのハエを殺した。」

6-1-b 彼はその箱を壊した。

- (7) A-li-haribu boksi hilo.
SM3SG-PST-break 5.box 5.that
「彼はその箱を壊した。」

6-1-c 彼はそのスープを温めた。

- (8) A-li-pash-a moto supu hiyo.
SM3SG-PST-warm.up-FV heat 9.soup 9.that
「彼はそのスープを温めた。」

⁴ ここでは *a*-のグロスを‘SM3SG’としているが、これは1クラスの主語接辞である。1クラスは単数形の人物を表す名詞が属するクラスである。したがって代名詞として用いられる場合には三人称単数ということになる。本稿では、1クラスの主語名詞が文中に現れている場合にはグロスを‘SM1’とするが、主語名詞が文中に現れていない場合、すなわち「彼／彼女」が主語になっている場合には、わかりやすさを優先し、同じSMのグロスを‘SM3SG’とする。また、*mama*「母(9)」、*rafiki*「友人(9)」、*kijana*「若者(7)」、*nzi*「ハエ(9)」、*mbwa*「犬(9)」といった有生名詞は、それらが属している名詞クラスに関係なく文法呼応では単数形は1クラス、複数形は2クラスの名詞として振る舞う。本稿ではこのような場合、文法呼応を明示するために、それらの名詞が属しているクラスではなく文法呼応のクラスである「1クラス」としてグロスを付ける。この文法呼応の規則には、1部の有生名詞については「所有詞だけはオリジナルの名詞クラスとして振る舞う」という例外があるが、それらも同様にグロスでは「1クラス」とする。

6-1-d 彼はそのハエを殺したが、死ななかつた。

- (9) a. A-li-tak-a ku-m-ua nzi huyo lakini ha-ku-f-a.
SM3SG-PST-want-FV INF-OM1-kill 1.fly 1.that but NEG.SM1-NEG.PST-die-FV
b. A-li-jaribu ku-m-ua nzi huyo lakini ha-ku-f-a.
SM3SG-PST-try INF-OM1-kill 1.fly 1.that but NEG.SM1-NEG.PST-die-FV
「彼はそのハエを殺そうとした、しかしそのハエは死ななかつた。」
c. *A-li-m-u-a nzi huyo lakini ha-ku-f-a.
*SM3SG-PST-OM1-kill-FV 1.fly 1.that but NEG.SM1-NEG.PST-die-FV
(彼はそのハエを殺したが死ななかつた)

ua 「殺す」は目的語で表されている対象が死亡するという結果を含意する結果完了動詞である。したがって、(9c)に示されるように「殺した」という動詞文の後に「しかし死ななかつた」という文が続くと、意味的に矛盾が生じ、非文となる。この場合は、(9a)および(9b)の例に示されるように、*taka* 「欲する」+不定形動詞や *jaribu* 「試みる」+不定形動詞を用いる必要がある（不定形動詞=*ku-*+動詞語幹）。

6-2 【直接影響・無変化】

6-2-a 彼はそのボールを蹴った。

- (10) A-li-pig-a m-pira huo kwa m-guu.
SM3SG-PST-hit-FV 3-ball 3.this with 3-foot
「彼はそのボールを蹴った。」

6-2-b 彼女は彼の足を蹴った。

- (11) a. A-li-m-pig-a teke m-guu-ni.
SM3SG-PST-OM3SG-hit-FV 9.kick 3-foot-LOC
b. A-li-m-pig-a teke la m-guu.
SM3SG-PST-OM3SG-hit-FV 9.kick 5.of 3-foot
「彼女は彼の足を蹴った。」

スワヒリ語では、「蹴る」は、(10)のように *piga* 「打つ、叩く」という意味をもつ動詞と *kwa mguu* 「足で」という句で表される。一方、(11)のように「人」や身体部分といった有生物やその一部を「蹴る」場合は、*piga* の後ろに *teke* 「蹴り」という名詞を続けた動詞句を用いる。身体部分には場所辞 *ni* が必須の要素としてつけられる。また、「*piga teke la* +身体部分」という表現でも表される。*la* は属辞と呼ばれ、英語の 'of' のような機能を持つ。属辞の後に動作の影響が与えられる場所が続く。なお、(11)のように「蹴る」という行為の対象が「人」の場合だけでなく、その一部の場合にも、動詞には「人」に一致した目的語接辞が動詞に付加される。ここで部分に一致した目的語接辞を入れることはできない。つまり蹴られたのが「足」であっても、目的語はその所有者ということになる。

6-2-c 彼はその人にぶつかった（故意に）。

- (12) A-li-m-gong-a m-tu huyo (kwa ma-kusudi).
SM3SG-PST-OM1-knock-FV 1-person 1.this (with 6-intention)
「彼はその人に（故意に）ぶつかった。」

6-2-d 彼はその人とぶつかった（うっかり）.

- (13) A-li-m-gong-a m-tu huyo (kwa bahati mbaya).
SM3SG-PST-OM1-knock-FV 1-person 1.this (with 9.luck 9.bad)
「彼はその人に（うっかり）ぶつかった。」

動詞の形による意思・無意思の区別はない。そのため、副詞句などの文修飾で *kwa makusudi* 「故意に」
や *kwa bahati mbaya* 「うっかり」といった意味を明示する必要がある。

6-3 【知覚 2A vs. 2B】

6-3-a あそこに人が数人見える。

- (14) a. Ni-na-wa-on-a wa-tu pale.
SM1SG-PRS-OM2-see-FV 2-people 17.there
「私はあそこに人が見える。」
b. Wa-tu wa-na-on-ikan-a pale.
2-people SM2-PRS-see-POT-FV 17.there
「人があそこに見える。」

(14a)は一人称単数の主語が *ona* 「見る」の動作者として現れている形式である。(14b)のように、可能形派生接辞 *-ikan-* を動詞に付加して、動作の対象物を主語にして表すこともできる。(14a)に比べて可能形を用いた(14b)のほうが意図性が低く、自発的な知覚を表している。

6-3-b 私はその家を見た。

- (15) a. Ni-li-on-a nyumba hiyo.
SM1SG-PST-see-FV 9.house 9.that
「私はその家を見た。」
b. Ni-li-tazam-a nyumba hiyo.
SM1SG-PST-look.at-FV 9.house 9.that
「私はその家を見た。」

「見る」を意味する動詞には他にも *angalia* があるが、(15b)の *tazama* や *angalia* に比べると(15a)に用いられている *ona* は意図性が低い。

6-3-c 誰かが叫んだのが聞こえた。

- (16) Ni-li-m-siki-a m-tu a-ki-pig-a kelele.
SM1SG-PST-OM1-hear-FV 1-person SM1-SIML-hit-FV 5.noise
「私は誰かが叫んだのを聞いた。」

(16)は知覚動詞 *sikia* 「聞く」が付帯状況を表す従属節を伴って用いられている。主節の動作と同時に生じている動作が従属節で表されている。

6-3-d 彼はその音を聞いた.

- (17) A-li-siki-a sauti hiyo.
SM3SG-PST-hear-FV 9.sound 9.that
「彼はその音を聞いた。」

6-4 【(知覚 2A) 発見・獲得・生産など】

6-4-a 彼は(なくした)カギを見つけた.

- (18) A-li-(u-)pat-a u-funguo a-li-o-(u-)potez-a.
SM3SG-PST-(OM11-)get-FV 11-key SM3SG-PST-RM11-(OM11-)lose-FV
「彼は(なくした)カギを見つけた。」

スワヒリ語の関係節は主名詞に一致する関係接辞(ここでは *o*)によってマークされる。(18)の関係節では、関係接辞に *ufunguo* 「カギ」に呼応する目的語接辞 *u-* が後続している。単文では目的語が有生名詞以外の場合は目的語接辞は必須ではないが、関係節の場合には有生名詞でない場合にも目的語接辞を入れるほうがより自然であるというのがコンサルタントの意見である。また、文法書にもそのような記述がある(Ashton 1947: 111)。ただし、実際の使用には目的語接辞の有無に地域差が見られる。

6-4-b 彼は椅子を作った.

- (19) A-li-tengenez-a ki-ti.
SM3SG-PST-make-FV 7-chair
「彼は椅子を作った。」

6-5 【追及】

6-5-a 彼はバスを待っている.

- (20) A-na-subiri basi.
SM3SG-PRS-wait 5.bus
「彼はバスを待っている。」

6-5-b 私は彼が来るのを待っていた.

- (21) a. Ni-li-m-ngoja-e-a a-j-e.
SM3SG-PST-OM3SG-wait-APPL-FV SM3SG-come-SBJV
b. Ni-li-m-ngoja-a a-j-e.
SM3SG-PST-OM3SG-wait-FV SM3SG-come-SBJV
c. Ni-li-m-subiri a-j-e.
SM3SG-PST-OM3SG-wait SM3SG-come-SBJV
「私は彼が来るのを待った。」

「待つ」という動詞には *ngoja* (およびその適用形である *ngojea*) と *subiri* がある。*subiri* はアラビア語起源の動詞で、*ngoja* に比べると「辛抱強く」という意味が加わる。*ngoja* と *ngojea* に意味的な違いは見られないが、適用形の *ngojea* がより自然な表現である。また、*subiri* は適用形にすると意味が強調され、冗長的となるということである。一般的には(21c)のように適用形にはせず基本形の *subiri* が使われる。

6-5-c 彼は財布を探している。

- (22) A-na-tafut-a pochi (yake ya pesa).
SM3SG-PRS-look.for-FV 9.pouch (9.his 9.of 10.money)
「彼は財布を探している。」

6-6 【知識 1】

6-6-a 彼はいろんなことをよく知っている。

- (23) A-na-ju-a mambo mengi.
SM3SG-PRS-know-FV 6.things 6.many
「彼は多くのことを知っている。」

6-6-b 私はあの人を知っている。

- (24) Ni-na-m-ju-a m-tu yule.
SM1SG-PRS-OM1-know-FV 1-person 1.that
「私はあの人を知っている。」

6-6-c 彼はロシア語ができる。

- (25) a. A-na-ju-a Ki-rusi.
SM3SG-PRS-know-FV 7-Russian
「彼はロシア語ができる。」
b. A-na-wez-a ku-ongea Ki-rusi.
SM3SG-PRS-be.able-FV INF-speak 7-Russian
「彼はロシア語を話すことができる。」

動詞 *ju* 「知っている」を用いて「できる」を表す場合、「できる」範囲が包括的である。例えば、例文(25a)の場合、*ju* の内容はロシア語を話す、書く、聞くという能力の全てが備わっていることを表す。一方、*weza* 「できる」を用いる場合は、能力が強調される。漠然と「できる」というよりも、*weza* の後ろに不定形動詞を後続させ、「できる」範囲を特定した表現のほうが自然である。

6-7 【知識 2】

6-7-a あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？

- (26) U-na-kumbuk-a ni-li-yo-sem-a jana?
SM2SG-PRS-remember-FV SM1SG-PST-RM6-say-FV yesterday
「あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？」

(26)の *niliyosema* は、関係接辞 *yo*-を含む関係節である。この *yo*-は *maneno* 「言葉」 *mambo* 「事柄」などの6クラスの主名詞と呼応するが、主名詞は文脈上明らかなため省略され、関係節全体が名詞句として「私が言ったこと」を表している。

6-7-b 私は彼の電話番号を忘れてしまった。

- (27) Ni-me-sahau namba yake ya simu.
SM1SG-PRF-forget 9.number 9.his 9.of 9.phone
「私は彼の電話番号を忘れた。」

6-8 【感情 1】

6-8-a 母は子供たちを深く愛していた。

- (28) a. Mama yao a-li-wa-pend-a wa-toto wake sana.
1.mother 1.their SM1-PST-OM2-love-FV 2-children 2.her very
b. Mama yao a-li-kuw⁵-a a-ki-wa-pend-a wa-toto wake sana.
1.mother 1.their SM1-PST-be-FV SM1-SIML-OM2-love-FV 2-children 2.her very
「彼らの母は子どもたちをとっても愛していた。」

(28a)は単純過去を用いて、完結した出来事が表されている。(28b)は、時制を標示する補助動詞 *alikuwa* 「彼女は～だった」と、アスペクト表示を伴う語彙動詞 *akiwapenda* 「彼女は彼らを愛している」とから成る複合形式の過去進行形が用いられている。過去進行形を用いることによって、過去のある時点において継続していた状態を表している。

6-8-b 私はバナナが好きだ。

- (29) Ni-na-pend-a ndizi.
SM1SG-PRS-love-FV 9.banana
「私はバナナが好きだ。」

6-8-c 私はあの人を嫌いだ。

- (30) Si-m-pend-i m-tu yule.
NEG.SM1SG-OM1-love-NEG.FV 1-person 1.that
「私はあの人を嫌いだ。」

スワヒリ語には *chukia* 「嫌う」という動詞もあるが、「嫌いだ」という表現には動詞 *penda* 「好む」の否定形がコンサルタントからは聞かれた。

6-9 【感情 2】

6-9-a 私は靴が欲しい。

- (31) Ni-na-tak-a vi-atu.
SM1SG-PRS-want-FV 8-shoes
「私は靴が欲しい。」

⁵ be 動詞にあたる動詞語幹は *wa* だが、スワヒリ語では1音節動詞語幹は(下に述べるいくつかの環境を除き)語幹の前に *ku* という音節を挿入する。この *ku* は歴史的には不定形を表す接頭辞に由来すると考えられているが、音韻調整のためだけに挿入されるものであり、文法的にも意味的にも機能はしていない。本稿ではこの音節が挿入される場合には、これを語根の一部としてグロスを付けることにする。本稿で扱うデータのなかで1音節動詞語幹でもこの *ku* が挿入されない環境は、①動詞中に OM がある場合、②接続形、③否定現在形、④否定完了形である。1音節動詞語幹には、*wa* 「である、なる (be 動詞)」の他に、*ja* 「来る」、*la* 「食べる」、*nywa* 「飲む」、などがある。

6-9-b 今，彼にはお金が要る．

- (32) A-na-hitaji pesa sasa.
SM3SG-PRS-need 9.money now
「今，彼はお金が必要だ．」

6-10 【感情 3】

6-10-a (私の)母は(私の)弟がうそをついたのに怒っている．

- (33) Mama yangu a-me-kasirik-a kwa sababu m-dogo wangu a-li-sem-a uwongo.
1.mother 1.my SM1-PRF-get.angry-FV for 9.reason 1-little 1.my SM1-PST-say-FV 11.lie
「私の母は私の弟がうそをついたので怒っている．」

-*kasirika* 「怒る」，-*furahi* 「喜ぶ」などの感情を表す動詞には完了を表す TA 接辞 *me-* が用いられる．

6-10-b 彼は犬が怖い．

- (34) A-na-(wa-)ogop-a mbwa.
SM3SG-PRS-(OM2-)be.afraid.of-FV 2.dogs
「彼は犬が怖い．」

(34)では犬一般が目的語となっており，複数形が用いられている．前述のとおり，スワヒリ語では目的語が有生名詞である場合，目的語接辞が必須とされるが，(34)のように犬一般を指す目的語の場合は目的語接辞は省略することができる．

6-11 【関係 1】

6-11-a 彼は父親に似ている．

- (35) Yeye a-na-fanan-a na baba yake.
3SG SM1-PRS-resemble-FV COM 1.father 1.his
「彼は父親に似ている．」

6-11-b 海水は塩分を含んでいる．

- (36) Maji ya bahari ya-na chumvi.
6.water 6.of 9.ocean SM6-COM 9.salt
「海水には塩分がある．」

(36)は所有表現を用いて「～がある」を表している．スワヒリ語において，現在時制のコピュラ文は，唯一動詞を用いない文構造である．所有文の構造は「SM-*na* (随伴)+A」となり「SはAを持っている / Aがついているという」意味を表す．

6-12 【関係 2】

6-12-a 私の弟は医者だ．

- (37) M-dogo wangu ni daktari.
1-little 1.my COP 5.doctor
「私の弟は医者だ．」

6-12-b 私の弟は医者になった。

- (38) M-dogo wangu a-me-kuw-a daktari.
1-little 1.my SM1-PRF-be-FV 5.doctor
「私の弟は医者になった。」

6-13 【能力1】

6-13-a 彼は車の運転ができる。

- (39) a. A-na-ju-a ku-endesha gari.
SM3SG-PRS-know-FV INF-drive 5.car
b. A-na-wez-a ku-endesha gari.
SM3SG-PRS-be.able-FV INF-drive 5.car
「彼は車の運転ができる。」

動詞 *jua* 「知っている」を用いる例文(39a)のほうがより多く用いられる。能力に焦点が当てられる場合は動詞 *wez* 「できる」が用いられる。(6-6c)を参照のこと。

6-13-b 彼は泳げる。

- (40) a. A-na-ju-a ku-ogelea
SM3SG-PRS-know-FV INF-swim
b. A-na-wez-a ku-ogelea.
SM3SG-PRS-be.able-FV INF-swim

6-14 【能力2】

6-14-a 彼は話をするのが上手だ。

- (41) a. Yeye ni m-zungumzaji m-zuri.
3SG COP 1-speaker 1-good
「彼は上手な話し手だ。」
b. Yeye a-na-wez-a ku-ongea vizuri.
3SG SM1-PRS-be.able-FV INF-speak well
「彼はうまく話すことができる。」
c. Yeye a-na-wez-a ku-ongea Ki-swahili vizuri.
3SG SM1-PRS-be.able-FV INF-speak 7-Swahili well
「彼はスワヒリ話をうまく話すことができる。」

「～が上手である」という表現は、(41a)のように動作主を「～が上手な人」というように名詞を用いて表すのが一般的である。また(41b)のように *wez* 「できる」を用いることもできる。ただしその場合は「能力」の意味が強くなるため、そのような技能を持っているという意味になる。したがってスワヒリ語学習者について「スワヒリ語がうまく話せる」といった場合は(41c)のように *wez* 「できる」を用いた表現のほうが自然である。

6-15-c 彼はこの道を通った。

- (45) a. A-li-pit-a barabara hii.
SM3SG-PST-pass-FV 9.road 9.this
- b. A-li-pit-i-a barabara hii.
SM3SG-PST-pass-APPL-FV 9.road 9.this
「彼はこの道を通った。」

(45a)の例が動詞 *pita* 「通る」を用いているのに対し、(45b)はその適用形 *pitia* を用いた例である。意味的にはどちらもほぼ同じである。項の数も増加していないように見えるが、適用形を用いた場合には場所を表す項が必須になるという違いがある (今泉他 2023)。

6-16 【感覚 1】

6-16-a 彼はお腹を空かしている。

- (46) a. A-na njaa.
SM3SG-COM 9.hunger
- b. A-na-hisi njaa.
SM3SG-PRS-feel 9.hunger
- c. A-na-siki-a njaa.
SM3SG-PRS-hear-FV 9.hunger
- d. A-na-on-a njaa.
SM3SG-PRS-see-FV 9.hunger
「彼はお腹が空いている。」

スワヒリ語の感覚表現には、所有表現を用いるものと動詞文を用いるものがある。(46a)は、随伴を表す *-na* と身体状態を表す述語名詞を組み合わせた所有表現が用いられている。一方、(46b-d)のように動詞文では、感覚動詞である *hisi*, *sikia*, および *ona* が用いられる。これらの動詞は *hisi* 「感じる」、*sikia* 「聞く」、*ona* 「見る」を意味する動詞であるが、*sikia* と *ona* も感覚一般を表す動詞として広く用いられる。「聞く」、「見る」を表す動詞が「感じる」という感覚動詞の意味拡張はバントゥ諸語においてよくみられる。なお、本論文では、*sikia* と *ona* には語彙的意味に基づく *hear*, *see* のグロスを付すが、本例のような内的感覚を表す表現では一般的な感覚動詞として「感じる」の意味を表す。

6-16-b 彼は喉が渇いている。

- (47) a. A-na kiu.
SM3SG-COM 9.thirst
- b. A-na-hisi kiu.
SM3SG-PRS-feel 9.thirst
- c. A-na-siki-a kiu.
SM3SG-PRS-hear-FV 9.thirst
- d. A-na-on-a kiu.
SM3SG-PRS-see-FV 9.thirst
「彼は喉が渇いている。」

「喉が渇く」を表す場合にも，(46)と同様に所有表現と感覚動詞文が用いられる．(47a)は所有表現を用いた例，(47b-d)は感覚動詞を用いた例である．

6-17 【感覚2】[完全な一項，もしくは0項の感覚述語である.]

6-17-a 私は寒い．

(48) a. Ni-na-siki-a baridi.

SM1SG-PRS-hear-FV 9.cold

b. Ni-na-hisi baridi.

SM1SG-PRS-feel 9.cold

c. Ni-na-on-a baridi.

SM1SG-PRS-see-FV 9.cold

「私は寒い。」

d. *Ni-na baridi

SM1SG-COM 9.cold

e. #Ni-na joto

SM1SG-COM 9.heat

「私は熱がある。」

(46)，(47)では，随伴を表す*-na*と身体状態を表す述語名詞を組み合わせた所有表現によって表される感覚表現の例を見た．(46a)，(47a)の「空腹」や「喉の渇き」は身体に内在し，所有されるものとして所有表現で表すことができたが，(48d-e)に見られる *baridi*「寒さ」や *joto*「暑さ」は所有構文で表現することはできない．これは，*baridi*や *joto*が身体に外在する環境条件であるため，所有することは不可能であるとみなされるためである．一方，生理的状态としての *joto*「暑さ＝熱」は身体に内在するものとして捉えられるため，(48e)のように所有構文を用いると「熱がある」という意味になる．

6-17-b 今日は寒い．

(49) Ku-na baridi leo.

SM17-COM 9.cold today

「今日は寒い」

スワヒリ語では天気，天候は，主語接辞に場所クラスである17クラスの主語接辞 *ku-*を用いた所有構文が用いられている．これは英語のいわゆる‘there is’構文にあたる．

6-18 【(社会的) 相互行為1】

6-18-a 私は彼を手伝った／助けた．

(50) Ni-li-m-saidi-a.

SM1SG-PST-OM3SG-help-FV

「私は彼を手伝った／助けた。」

6-18-b 私は彼がそれを運ぶのを手伝った.

- (51) a. Ni-li-m-saidi-a ku-beba hicho.
SM1SG-PST-OM3SG-help-FV INF-carry 7.this
「私は彼がそれを運ぶのを手伝った。」
- b. *Ni-li-m-saidi-a a-beb-e hicho.
SM1SG-PST-OM3SG-help-FV SM3SG-carry-SBJV 7.this

(51)も動詞 *saidia* が2つの項をとる例であるが、手伝う行為の内容 *kubeba hicho* は補文として表れ、受益者である「彼」がこの補文内の動作手として解釈される。なお、(51b)のように、手伝う行為の内容を接続形で表す構文はコンサルタントによると容認されなかった。

6-19 【(社会的) 相互行為2 (言語行動)】

6-19-a 私はその理由を彼に聞いた.

- (52) Ni-li-m-uliz-a sababu hiyo.
SM1SG-PST-OM3SG-ask-FV 9.reason 9.that
「私はその理由を彼に聞いた。」

6-19-b 私はそのことを彼に話した.

- (53) Ni-li-m-ambi-a hilo.
SM1SG-PST-OM3SG-tell-FV 5.that
「私はそのことを彼に言った。」

(52), (53)は *uliza* 「たずねる, 質問する」, *ambia* 「話す」という動詞において、内容が名詞句で表される例である。これらに一致する目的語接辞を入れることはできない。目的語接辞は、いわゆる「間接目的語」に一致する。

6-20 【再帰・相互】

6-20-a 私は彼と会った.

- (54) a. Ni-li-m-on-a.
SM1SG-PST-OM1-see-FV
「私は彼を見た。 > 私は彼に会った。」
- b. Ni-li-m-kut-a.
SM1SG-PST-OM1-meet-FV
「私は彼を見た。 > 私は彼に会った。」
- c. Ni-li-on-an-a na-ye.
SM1SG-PST-see-RECP-FV COM-PRON3SG
「私は彼と会った。」
- d. Ni-li-kut-an-a na-ye.
SM1SG-PST-meet-RECP-FV COM-PRON3SG
「私は彼と会った。」

「～と会う」は動詞 *ona*, *kuta* 「会う」が用いられる。これらは他動詞で、これらをそのまま用いた(54a)

と(54b)では、目的語の「彼」は目的語接辞として動詞の内部に現れる。一方、(54c)と(54d)はこれらの動詞に相互形接辞-*an* を付加した形を用いている。相互形接辞-*an* が付加されることで、これらの動詞は自動詞化する。この場合は「彼と」は、随伴を表す前置詞句を伴って動詞の外に現れる。(54a)で用いている基本形他動詞 *ona* 「見る」を用いて「会う」という意味を表す場合は、相互形 *onana* を用いた(54b)に比べて意図性が低くなる。文脈があれば「会う」という意味に解釈することも可能であるが、そうでない場合には「見る」の解釈のほうが優先される。ただし、未来時制で用いられる場合は、「見る」ではなく「会う」と解釈される。*kuta* を用いた(54b)と(54d)については、基本形他動詞を用いた(54b)は意図していない場合にも用いられるのに対し、相互形の(54d)の方は意図的に「会う」という意味が明確に表れるため、意図しないで会う場合には用いられない。

4. 「連用修飾的複文」(語研論集 第20号)

7-1 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。【同時動作】

- (55) a. A-na-kul-a chakula a-ki-som-a gazeti.
SM3SG-PRS-eat-FV 7.food SM3SG-SIML-read-FV 5.newspaper
- b. A-na-kul-a chakula huku a-ki-som-a gazeti.
SM3SG-PRS-eat-FV 7.food while SM3SG-SIML-read-FV 5.newspaper
- c. A-na-kul-a chakula huku a-na-som-a gazeti.
SM3SG-PRS-eat-FV 7.food while SM3SG-PRS-read-FV 5.newspaper
- 「彼は(いつも)新聞を読みながらご飯を食べる。」
「彼は新聞を読みながらご飯を食べている。」

同時動作の表現には同時を表す TA 接辞の *ki*-を用いる。また、(55c)の例のように、接続詞 *huku* 「～の間」を用いる場合は、現在時制を表す TA 接辞 *na*-を用いる動詞文とも共起することが可能である。現在を表す TA 接辞 *na*-は、進行相を表す用法に加え、繰り返し行われる動作や習慣的行為を表す用法も持つ。

7-2 (私は)昨日は9時に家に帰って、少しテレビを見て(から)、寝ました。

【継起的動作・物語的連鎖】

- (56) Jana ni-li-fik-a nyumba-ni saa tatu, ni-ka-tazam-a televisheni, na
yesterday SM1SG-PST-arrive-FV 9.home-LOC hour three SM1SG-CONS-watch-FV 9.tv and
ni-ka-lal-a.
SM1SG-CONS-sleep-FV
- 「(私は)昨日は9時に家に帰って、テレビを見てから、寝ました。」

継起的動作を表すには継起を表す TA 接辞 *ka*-を用いる。

7-3 (私は)昨日階段で転んで、ケガをしてしまった。【継起：理由】

- (57) a. Jana, ni-li-anguk-a kwenye ngazi ni-ka-umi-a.
yesterday SM1SG-PST-fall-FV on stairs SM1SG-CONS-be.injured-FV
- b. Jana, ni-li-anguk-a ngazi-ni ni-ka-umi-a.
yesterday SM1SG-PST-fall-FV 9.stairs-LOC SM1SG-CONS-injure-FV
- 「(私は)昨日階段で転んで、ケガをした。」

継起を表す TA 辞 *ka-* が表す継起性は、動作に限らず、イベントの継起性も表す。ただし表しているのはイベントの時系列だけであって、因果関係を含意しているわけではない。

7-4 今日も父は会社に行って、兄は大学に行った。【異主語】

- (58) a. Baba a-li-kwend-a kazi-ni leo pia na kaka a-li-kwend-a chuo_kikuu.
1.father SM1-PST-go-FV 9.work-LOC today also and 1.brother SM1-PST-go-FV 7.university
- b. Baba a-li-kwend-a ofisi-ni leo pia na kaka a-li-kwend-a chuo_kikuu.
1.father SM1-PST-go-FV 9.office-LOC today also and 1.brother SM1-PST-go-FV 7.university
- c. Leo pia baba a-li-kwend-a kampuni na kaka a-li-kwend-a chuo_kikuu.
today also 1.father SM1-PST-go-FV 9.today and 1.brother SM1-PST-go-FV 7.university
「今日も父は会社に行って、兄は大学に行った。」
- d. Mbwa a-ka-zidi ku-m-fuata yule m-nyama, na kadhalika Mpobe
1.dog SM1-CONS-increase INF-OM1-follow 1.that 1-animal and likewise Mpobe
a-ka-w-a a-ki-end-a. (Ashton 1944: 254)
SM3SG-CONS-be-FV SM3SG-SIML-go-FV
「犬はその動物を追い続け、ムボペも同様に行った。」

コンサルタントは、継起する文で主語が異なる場合は、TA 接辞 *ka-* を用いることができないという理由から、(58)の回答しか許容していない。しかし、(58d)のように、教科書や文法書では主語が異なっても *ka-* が用いられる例も紹介されている。

7-5 (あの人は) 今日帽子をかぶって歩いていた。【付帯状況】

- (59) a. (M-tu yule) a-li-tembe-a a-ki-w-a a-me-va-a kofia.
(1-person 1.that) SM1-PST-walk-FV SM1-SIML-be-FV SM1-PRF-wear-FV 9.hat
「(あの人は) 今日帽子をかぶって歩いていた。」
- b. (Mtu yule) a-li-tembe-a a-ki-va-a kofia.
(1-person 1.that) SM1-PST-walk-FV SM1-SIML-wear-FV 9.hat
「(あの人は) 今日帽子をかぶりながら歩いていた。」

TA 接辞 *ki-* は、主節で表されている事態と同時に起きていることや付帯状況を表す従属節にも用いられる。付帯状況として「かぶっている」状態を表す場合は、(59a)のように補助動詞 *akiwa* と、状態を表す語彙動詞 *amevaa* 「かぶっている」とから成る複合形式によって過去のある時点における状態が表される。一方、従属節で同時を表す TA 接辞 *ki-* を直接動作動詞に用いた(59b)は「かぶりながら」という同時進行の意味となる。

7-6 (私は) 休みの日にはいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。【並行動作】

- (60) a. Siku za ma-pumziko mimi hu-som-a vitabu na ku-tazama televisheni.
9.days 9.of 6-rest 1SG HAB-read-FV 8.books and INF-watch 9.tv
- b. Siku za ma-pumziko mimi hu-som-a vitabu au ku-tazama televisheni.
9.days 9.of 6-rest 1SG HAB-read-FV 8.books or INF-watch 9.tv
「私は休みの日にはいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。」

並行動作は(60a)のように並列を表す接続詞 *na* + 不定形動詞，もしくは，(60b)のように選択肢を表す接続詞 *au* + 不定形動詞でも表される。

7-7 時間がないから，急いで行こう。【理由・カラ】

- (61) a. Ha-tu-na muda tu-end-e haraka.
NEG-SM1PL-COM 3.time SM1PL-go-SBJV hurry
「時間がありません，急いで行きましょう。」
- b. Ha-tu-na muda (kwa) hivyo⁶ tu-end-e haraka.
NEG-SM1PL-COM 3.time (for) so SM1PL-go-SBJV hurry
「時間がありません，だから，急いで行きましょう。」
- c. Tu-end-e haraka maana ha-tu-na muda.
SM1PL-go-SBJV hurry because NEG-SM1PL-COM 3.time
- d. Tu-end-e haraka kwa sababu ha-tu-na muda.
SM1PL-go-SBJV hurry for reason NEG-SM1PL-COM 3.time
「時間がないので急いで行こう。」

(61a)のように，接続詞を用いることなく文を後続させることもできる。(62c, d)では *maana* と *kwa sababu* で始まる従属節によって理由が表されている。

7-8 昨日は頭が痛かったので，いつもより早く寝ました。【理由・ノデ】

- (62) a. Ki-chwa ki-li-kuw-a ki-na-ni-um-a jana (kwa) hivyo ni-li-lal-a
7-head SM7-PST-be-FV SM7-PRS-OM1SG-hurt-FV yesterday (for) so SM1SG-PST-sleep-FV
mapema kuliko kawaida.
early than usual
「昨日は頭が痛かった，だから，私はいつもより早く寝ました。」
- b. Kwa sababu ni-li-umw-a⁷ (na) ki-chwa jana ni-li-lal-a mapema
for reason SM1SG-PST-be.sick-FV (by) 7-head yesterday SM1SG-PST-sleep-FV early
kuliko kawaida.
than usual
- c. Ni-li-lal-a mapema kuliko kawaida jana kwa sababu ni-li-umw-a
SM1SG-PST-sleep-FV early than usual yesterday for reason SM1SG-PST-be.sick-FV
(na) ki-chwa.
(by) 7-head
- d. Ni-li-lal-a mapema kuliko kawaida jana kwani ni-li-umw-a
SM1SG-PST-sleep-FV early than usual yesterday (because) SM1SG-PST-be.sick-FV
(na) ki-chwa.
(by) 7-head
「昨日は頭が痛かったので，私はいつもより早く寝ました。」

⁶ *hivyo* は 8 クラスに呼応したものではなく、「そのように」という様態を表すものである。

⁷ *umwa* は *uma* の受動形であり *kichwa* 「頭」の前に行為者を表す *na* が入ると「私は頭によって痛め付けられている」という受動態のように見える。しかしながら実際には *umwa* は「病気である，具合が悪い」といった意味で語彙化しており，*na* を伴わずに通常の「全体・部分」表現として用いられるのが一般的である。

(62a)では、2つの独立した節が(kwa) hivyo「だから」という接続詞で繋がった並列復文である。前の節で述べられる事態が、後の節で述べられる事態の理由となっている。(62b-d)ではkwa sababuとkwaniで始まる従属節によって理由が表されている。kwa sababuとkwaniで始まる従属節は主節の前にも後ろにも置くことができる。

7-9 あの人(は)は本(を)を買い(に)行(っ)た。【趨向／移動の目的】

- (63) M-tu yule a-li-kwend-a ku-nunua ki-tabu.
1-person 1.that SM1-PST-go-FV INF-go 7-book
「あの人(は)は本(を)を買い(に)行(っ)た。」

移動の目的も動詞の不定形で表される。

7-10 (彼は)外(が)よく見(え)るよう(に)窓(を)開(け)た。【目的・意図】

- (64) A-li-fungu-a dirisha (ili) a-on-e nje vizuri.
SM3SG-PST-open-FV 5.window (so.that) 3SG-see-SBJV outside well
「彼は外(が)よく見(え)るよう(に)窓(を)開(け)た。」

目的を表す従属節には接続詞 *ili* 「～のために」が任意で用いられる。

7-11 ここ(で)は夏(に)な(る)と、よく雨(が)降(り)ま(す)。【恒常的条件】

- (65) Mvua i-na-nyesh-a mara nyingi hapa ma-jira ya joto.
9.rain SM9-PRS-rain-FV 9.times 9.many here 6-seasons 6.of 9.hot
「ここ(で)は夏(に)な(る)と、よく雨(が)降(り)ま(す)。」

スワヒリ語には習慣や真理、恒常的条件を表す習慣相 *hu-* という形式がある。しかしながら、コンサルタントから自発的に出てきたのは現在 TA 接辞の *na-* である。実際の発話でも *hu-* よりも *na-* のほうが頻繁に聞かれる。(65)では、*majira ya joto* 「夏」という時間表現と共に起して恒常的条件を表している。

7-12 窓(を)開(け)ると、冷(た)い風(が)入(っ)て来(た)。【確定条件・生起】

- (66) a. U-pepo (wa) baridi u-li-ingi-a ni-li-po-fungu-a dirisha.
11-wind (11.of) cold SM11-PST-enter-FV SM1SG-PST-RM16-open-FV 5.window
「窓(を)開(け)たとき、冷(た)い風(が)入(っ)て来(た)。」
b. *U-pepo (wa) baridi u-li-ingi-a ni-ki-fungu-a dirisha.
11-wind (11.of) cold SM11-PST-enter-FV SM1SG-COND-open-FV 5.window
c. U-pepo (wa) baridi u-na-ingi-a u-ki-fungu-a dirisha.
11-wind (11.of) cold SM11-PRS-enter-FV SM2SG-COND-open-FV 5.window
d. U-ki-fungu-a dirisha u-pepo (wa) baridi u-na-ingi-a.
SM2SG-COND-open-FV 5.window 11-wind (11.of) cold SM11-PRS-enter-FV
「窓(を)開(け)れば、冷(た)い風(が)入(っ)て来(る)。」

(66a)の従属節 *nilipofungua* の語根の前にある *po-* は、16 クラス (場所クラス) に一致した関係接辞で、場所や時を表すのに用いられる。(66a)のように *po-* を用いた時を表す従属節は条件を表す場合にも用い

られる。また、スワヒリ語には条件を表す TA 接辞 *ki-*があるが、これは(66b)が示すように過去のイベントとは共起できない。(66c)のように現在やこれからのことについての条件であれば *ki-*を用いることができる。また、節の順番については、主節と従属節の順番は入れ替えが可能である。

7-13 坂を上ると、海が見えた。【確定条件・発見】

- (67) a. Ni-li-po-pand-a ki-lima ni-li-on-a bahari.
SM1SG-PST-RM16-climb-FV 7-hill SM11-PST-see-FV 9.sea
「坂を上った時、私は海を見た。」
- b. Bahari i-li-oneka-n-a ni-li-po-pand-a ki-lima.
9.sea SM9-PST-be.seen-FV SM1SG-PST-RM16-climb-FV 7-hill
「坂を上った時、海が見えた。」
- c. *Bahari i-li-onekan-a ni-ki-pand-a ki-lima.
9.sea SM9-PST-be.seen-FV SM1SG-COND-climb-FV 7-hill

(66a)と同様、(67a, b)では *po-*を用いた時を表す従属節が条件を表している。(67c)は(66b)と同じく、条件を表す TA 接辞 *ki-*は過去のイベントとは共起できないため非文となる。

7-14 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。【仮定条件】

- (68) Mvua i-ki-nyesh-a kesho, si-ta-kwend-a huko.
9.rain SM1SG-COND-rain-FV tomorrow NEG.SM1SG-FUT-go-FV there
「明日雨が降ったら、私はそこに行かない。」

条件や仮定を表す従属節には仮定・条件を表す TM 接辞 *ki-*が用いられる。(66)でも見られたように、TM 接辞 *ki-*は、現在形か未来形、あるいは命令形などの主節と共に用いられるのが一般的である。

7-15 もっと早く起きればよかったなあ。【反実仮想】

- (69) a. Ni-{nge/ngali-}amk-a mapema zaidi.
SM1SG-{IRR/IRR.PST}wake.up-FV early more
- b. Laiti ni-{nge/ngali-}amk-a mapema zaidi.
if.only SM1SG-{IRR/IRR.PST}wake.up-FV early more
「もっと早く起きればよかったなあ。」

反実仮想を表すには、仮想 (irrealis) を表す TM 接辞 *nge-*もしくは *ngali-*を用いる。現在の反実仮想を表す場合には *nge-*、過去の反実仮想には *ngali-*が用いられるのが基本だが、実際にはどちらも厳密には区別されずに用いられている。また、(69b)のように接続詞 *laiti* は仮想形と共起して「後悔」を表す。これがなくても文は成立するが、*laiti* を付けると、付けない場合に比べて後悔の念が明確に表される。

7-16 あんなところへ行かなければよかった。【反実仮想・前件否定】

- (70) a. Ni-si-{nge/ngali-}end-a mahali kama huko.
SM1SG-NEG-{IRR/IRR.PST}go-FV place as there

- b. N-a-tamaani ni-si-ngali-end-a mahali kama huko.
SM1SG-PRS-wish SM1SG-NEG-IRR.PST-go-FV place as there
「あんなところへ行かなければよかった。」

(70b)のように *tamaani* 「熱望する」を使うと、後悔の念がより明確に表される。

7-17 1に1を足せば、2になる。【一般的真理】

- (71) a. U-ki-jumlish-a moja na moja, i-ta-kuw-a mbili.
SM2SG-COND-total-FV one and one SM9-FUT-be-FV two
「1と1を合わせたら、2になる。」
- b. U-ki-ongez-a moja na moja, i-ta-kuw-a mbili.
SM2SG-COND-add-FV one and one SM9-FUT-be-FV two
- c. A-ki-ongez-a moja na moja, i-ta-kuw-a mbili.
SM3SG-COND-add-FV one and one SM9-FUT-be-FV two
- d. Wa-ki-ongez-a moja na moja, i-ta-kuw-a mbili.
SM3PL-COND-add-FV one and one SM9-FUT-be-FV two
「1に1を加えたら、2になる。」

一般的真理を表す条件の場合も条件を表す TA 接辞 *ki-*が用いられる。また、その場合の条件節の主語は(71b)のように二人称単数であることが一般的であるが、(71c, d)のように三人称単数／複数を用いられることもある。

7-18 駅に着いたら電話をしてください。【仮定条件+働きかけのモダリティ】

- (72) a. U-ki-fik-a stesheni ni-pig-i-e simu.
SM2SG-COND-arrive-FV 9.station OM1SG-hit-APPL-SBJV 9.phone
「駅に着いたら電話をしてください。」

従属節に条件を表す TA 接辞 *ki-*が用いられ仮定条件が表される。主節では依頼を表現するために接続形が用いられ、聞き手に対して行為を要求する働きかけのモダリティを表す。

7-19 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。【仮定条件+願望】

- (73) a. Ni-a-tak-a ku-enda bustani-ni (i-ki-fik-a) Jumapili.
SM1SG-PRS-want-FV INF-go 9.garden-LOC (SM9-COND-arrive-FV) Sunday
- b. Ni-na-tak-a ku-enda bustani-ni Jumapili (i-j-a-yo).
SM1SG-PRS-want-FV INF-go 9.garden-LOC Sunday (SM9-come-FV-RM9)
「日曜日に(なったら)、みんなで公園に行きたいなあ。」

7-20 明日雨が降ったら困るなあ。【心配】

- (74) a. Mvua i-ki-nyesh-a kesho i-ta-kuw-a shida.
9.rain SM9-COND-rain-FV tomorrow SM9-FUT-be-FV 9.problem

- b. I-ta-kuw-a shida mvua i-ki-nyesh-a kesho.
SM9-FUT-be-FV 9.problem 9.rain SM9-COND-rain-FV tomorrow
「明日雨が降ったら困るなあ。」

(74a)のほうがより自然である。(74b)は「困る」ということに焦点が当てられる。

7-21 家に来るなら，電話をしてから来てください。【時間的前後関係に則していないナラ条件】

- (75) a. U-ki-tak-a ku-ja nyumba-ni u-ni-pig-i-e simu kabla.
SM2SG-COND-want-FV INF-come 9.house-LOC SM2SG-OM1SG-hit-APPL-SBJV 9.phone before
「家に来るなら，その前に電話してください。」
- b. U-ni-pig-i-e simu kabla ya ku-ja nyumba-ni.
SM2SG-OM1SG-hit-APPL-SBJV 9.phone 9.before 9.of INF-come 9.house-LOC
- c. U-ni-pig-i-e simu kabla hu-ja-j-a nyumba-ni.
SM2SG-OM1SG-hit-APPL-SUBJ 9.phone 9.before SM2SG-NEG.PRF-come-FV 9.house-LOC
「家に来る前に，電話をしてください。」
- d. U-taka-po-kuj-a nyumba-ni, u-ni-pig-i-e simu kwanza.
SM2SG-FUT.REL-RM16-come-FV 9.house-LOC SM2SG-OM1SG-hit-APPL-SBJV 9.phone first
「家に来る時には，まず電話をしてください。」

(75a)の例は，条件を表す TA 接辞 *ki-*を用いた条件節であり，時間的前後関係に則していない条件文である。一方，(75b-d)は，*kabla ya kuja*「来る前に」，*kabla hujaja*「来る前に」，*po-kuja*「来る時に」などを用いることで従属節において時間的前後関係が示されている。*kabla*の後ろには必ず未完了形が続く。

なお，(75d)の時を表す接辞 *po-*は「～な時」と訳せるが，英語の‘when’ほど確定的でない場合でも使える。

7-22 (もうすぐベルが鳴るので) 鳴ったら，教えてください。【予想を伴った条件文】

- (76) a. Kengele i-ki-li-a, ni-ambi-e.
9.bell SM9-COND-cry-FV OM1SG-tell-SBJV
「ベルが鳴ったら，教えてください。」
- b. Kengele i-taka-po-li-a ni-ambi-e.
9.bell SM9-FUT.REL-RM16-cry-FV OM1SG-tell-SBJV
「ベルがなった時，教えてください。」

予想を伴った条件文では，(76a)のように従属節に条件を表す TA 接辞 *ki-*が用いられる形式や，(76b)のように時を表す関係接辞 *po-*を用いる形式が用いられる。

7-23 (もしかしたらベルが鳴るかもしれないので) もし鳴ったら，教えてください。

【予想を伴わない条件文】

- (77) a. Kama kengele i-ki-li-a ni-ambi-e.
if 9.bell SM9-COND-cry-FV OM1SG-tell-SBJV
- b. Kama i-ki-li-a kengele u-ni-ambi-e.
if SM9-COND-cry-FV 9.bell SM2SG-OM1SG-tell-SBJV

- c. Kama i-ta-li-a kengele u-ni-ambi-e.
if SM9-FUT-cry-FV 9.bell SM2SG-OM1SG-tell-SBJV
「もしベル鳴ったら、教えてください。」

予想を伴わない条件文にも条件を表す *ki-* が用いられるが、接続詞 *kama* 「もし」が従属節に用いられる。未来を表す TA 接辞 *ta-* も条件文に用いられる。なお、(77b, c) の条件節では主語が動詞の後ろに置かれており文法的にも可能であるが、基本語順 SV(O) である(77a)がより自然である。

7-24 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。【関連構文】

- (78) a. (M-tu) a-si-ye-fany-a kazi (na) a-si-l-e.
(1-person) SM1-NEG-RM1-do-FV 9.work (and) SM1-NEG-eat-SBJV
「働かない者は、食べるな。」
- b. (M-tu) a-si-ye-fany-a kazi (na) ha-l-i.
(1-person) SM1-NEG-RM1-do-FV 9.work (and) NEG.SM1-eat-NEG.FV
「働かない者は、食べない。」
- c. (M-tu) a-si-ye-fany-a kazi (na) ha-tak-iw-i ku-la.
(1-person) SM1-NEG-RM1-do-FV 9.work (and) NEG.SM1-want-PASS-NEG.FV INF-eat
「働かない者は、食べることを望まれていない。」
- d. *(M-tu) a-si-po-fany-a kazi lazima a-si-l-e.
(1-person) SM1-NEG-RM16-do-FV 9.work must SM1-NEG-eat-SBJV
(働かない者は、食べるべきではない。)

(78a-c) では、「働かない者」のように主語を修飾して条件を示している。(78a) では主節の動詞が接続法で表されているのに対し、(78b, c) では主節動詞が直説法で表されている。それぞれ動詞は否定形が用いられている。なお、「時」を表す節は *asipofanya* 「働かないとき (場合)」のように条件節として用いることも可能である。その場合にも(78a-c) と同様の 3 種類の主節を導くことができる。なお、(78d) に見られるように、「*lazima* + 否定接続形」はコンサルタントによって容認されていないため非文となっているが、教科書や文法書には否定義務として「*lazima* + 否定接続形」が紹介されている (Wilson 1985: 123; 中島 2000: 174 他)。

7-25 もう少しお金があったらなあ。【言いさし・願望】

- (79) a. Ni-nge-kuw-a na pesa zaidi.
SM1SG-IRR-be-FV COM 9.money more
- b. Laiti ni-nge-kuw-a na pesa zaidi.
if.only SM1SG-IRR-be-FV COM 9.money more
- c. Lau ni-nge-kuw-a na pesa zaidi.
if.only SM1SG-IRR-be-FV COM 9.money more
「もう少しお金があったらなあ。」

言いさし・願望を表す表現には仮想を表す TA 接辞 *nge-* を用いる。(79a, b) の例に見られる接続詞 *laiti*, *lau* はなくても成立するが、これらを用いると後悔の念がより強く表される。

7-26 これも食べたら？【言いさし・提案】

- (80) a. U-nge-kul-a hiki pia?
SM2SG-IRR-eat-FV 7.this also
「これも食べたら？」
- b. Bora u-l-e hiki pia.
better SM2SG-eat-SBJV 7.this also
「これも食べるほうがいいよ。」
- c. Si u-l-e na hiki.
NEG SM2SG-eat-SBJV and 7.this
「これも食べないの？」

スワヒリ語では、言い差し、提案を表す表現には、(80a)のように仮想を表す TA 接辞 *nge*-を用いた形式を用いる。また、(80b)に見られる *bora* 「～の方が良い」には接続形が後続し「～した方が良い」という意味を表す。(80c)は否定辞 *si* を文頭に置き、接続形を後続させる形式である。これらの場合は、提案の内容がより丁寧かつ控えめになる。

7-27 (やりたいなら自分の)好きなようにやれば？【言いさし・つき放し】

- (81) a. Fany-a u-na-vyo-tak-a.
do-FV SM2SG-PRS-RM8-want-FV
- b. Fany-a u-tak-a-vyo.
do-FV SM2SG-want-FV-RM8
「好きなようにしなさい。」
- c. U-fany-e u-na-vyo-tak-a.
SM2SG-do-SBJV SM2SG-PRS-RM8-want-FV
- d. U-fany-e u-tak-a-vyo.
SM2SG-do-SBJV SM2SG-want-FV-RM8
「好きなようにしてください。」

言い差し・つき放しの表現は、(81a, b)のように命令形を用いる形式と(81c, d)のように接続形を用いる形式がある。なお、脚注 6 でも述べたように、(81)で用いられている関係接辞 *vyo*-は、本来は 8 クラス名詞に一致する関係接辞であるが、(81)の例のように、様態を表す副詞的にも用いられる。この場合は名詞クラスは無関係である。

7-28 このコップは落としても割れない。【仮定的な逆接】

- (82) a. Ki-kombe hiki ha-ki-vunj-ik-i hata ki-ki-angush-w-a.
7-glass 7.this NEG-SM7-break-STT-NEG.FV even SM7-COND-drop-PASS-FV
「このコップは落とされても割れない。」
- b. Ki-kombe hiki ha-ki-vunj-ik-i hata u-ki-(ki-)angush-a.
7-glass 7.this NEG-SM7-break-STT-NEG.FV even SM2SG-COND-(OM7-)drop-FV
「このコップはあなたが落としても割れない。」

仮定的な逆接は、条件を表す TA 接辞 *ki*-を用いた条件文と *hata* 「たとえ (～でも)」という語を用いる

累加の形式を組み合わせて表される。なお, *angusha* 「落とす」を(82b)のように能動態で用いるよりも, (82a)のように受動態を用いて表す方がより自然な表現である。

7-29 このリンゴは高かったのに, ちっとも甘くない。【アクチュアルな逆接】

- (83) a. Tufaha hili li-li-kuw-a ghali lakini si tamu hata kidogo.
5.apple 5.this SM5-PST-be-FV expensive but NEG.COP sweet even little
「このリンゴは高かった, しかしちっとも甘くない。」
- b. Ingawa tufaha hili li-li-kuw-a ghali, si tamu hata kidogo.
although 5.apple 5.this SM5-PST-be-FV expensive NEG.COP sweet even little
「このリンゴは高かったけれど, ちっとも甘くない。」

逆接表現には, (83a)のように逆接を導く接続詞 *lakini* 「しかし」を用いる形式と, (83b)のように *ingawa* 「～だけれども」という接続詞で従属節を導く形式がある。

7-30 彼の家に行ってみたけれども, 彼はいなかった。【逆接3】

- (84) a. Ni-li-kwend-a nyumba-ni kwake (lakini) ha-ku-w-a-po.
SM1SG-PST-go-FV house-LOC 17.his (but) NEG.SM3SG-NEG.PST-be-FV-LOC16
「彼の家に行ってみた, しかし彼はいなかった。」
- b. Ingawa ha-ku-w-a-po ni-li-kwend-a nyumba-ni kwake.
although NEG.SM3SG-NEG.PST-be-FV-LOC16 SM1SG-PST-go-FV house-LOC 17.his
「彼はいなかったけれど (いないことはわかっていたけれど), 私は彼の家に行った。」

接続詞 *lakini* は省略可能である。(84b)の例は, 逆接内容を表す従属節の内容を知っていた, もしくは予想できていたけれど, 主節の動作を行ったという意味となる。

7-31 あの人が来るまで, 私はここで待っています。【時間的期限[1]】

- (85) a. Ni-ta-subiri mpaka a-taka-po-kuj-a.
SM1SG-FUT-wait untill SM3SG-FUT.REL-RM16-come-FV
- b. Ni-ta-subiri mpaka a-j-e.
SM1SG-FUT-wait untill SM3SG-come-SBJV
「あの人が来るまで, 私は待っています。」
- c. Ni-ta-m-ngoje-a mpaka a-taka-po-kuj-a.
SM1SG-FUT-OM3SG-wait-APPL-FV untill SM3SG-FUT.REL-RM16-come-FV
- d. Ni-ta-m-ngoje-a mpaka a-j-e.
SM1SG-FUT-OM3SG-wait-APPL-FV untill SM3SG-come-SBJV
「あの人が来るまで, 私は彼を待っています。」

時間的期限は接続詞 *mpaka* 「～まで」によって表される。(85a), (85c)は, 彼が来るまでの「時間」を待つことを表している。(85b), (85d)は目的語接辞 *m-*を用いることで, 「彼を」待つことが明確となっている。

7-32 あの人が来るまでに，食事を作っておきますよ。【時間的期限[2]】

- (86) a. Ni-ta-kuw-a ni-mesha-pik-a chakula a-taka-po-fik-a.
SM1SG-FUT-be-FV SM1SG-COMPV-cook-FV 7.food SM3SG-FUT.REL-RM16-arrive-FV
- b. Ni-ta-kuw-a ni-me-pik-a chakula kabla ha-ja-j-a.
SM1SG-FUT-be-FV SM1SG-PRF-cook-FV 7.food before NEG.SM3SG-NEG.PRF-come-FV
- 「あの人が来るまでに，食事を作っておきますよ。」

(86a, b)のいずれにおいても，主節で述べられる事態を従属節が表す時点までに完了することを表すために，複合時制の未来完了が用いられている。(86a)の従属節は，時を表す接辞 *po-* を用いて「～する時には」と表されている。一方，(86b)の従属節は，*kabla* が用いられ「来る前に」と表されている。

5. 「情報構造と名詞述語文」(語研論集 第21号)

ここでは，スワヒリ語の情報構造と名詞述語文のデータを示す。

8-1 えっ，A (固有名詞) が来たの？/いや，A じゃなくて B が来たんだ。【対比焦点 (主語)】(例えば，昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で)

- (87) Ee, Aisha a-li-kuj-a?
INTJ 1.Aisha SM1-PST-come-FV
「えっ，Aisha が来たの？」
- (87)' Hapana, si Aisha (bali) ni Fatma a-li-ye-kuj-a.
no NEG 1.Aisha (but) COP 1.Fatma SM1-PST-RM1-come-FV
「いや，Aisha じゃなくて Fatma が来たんだ。」

(87)'は，コピュラを用いた *si A (bali) ni B* 「A ではない (が) B だ」を表す形式である。

8-2 誰が来たの？/A が来たよ。【WH 焦点 (主語)・WH 応答焦点 (主語)】

- (88) Nani a-li-kuj-a?
who SM3SG-PST-come-FV
「誰が来たの？」
- (88)' a. (Ni) Aisha.
 (COP) 1.Aisha
 「Aisha です。」
- b. Aisha ndi-ye a-li-ye-kuj-a.
1.Aisha COP.FOC-RM1 SM1-PST-RM1-come-FV
「Aisha が来た人です。」

(88a)'は最もシンプルな応答である。コピュラは任意である。(88b)'は分裂文を用いた応答である。特に主語が WH 焦点になっている場合は単文ではなくこのような分裂文での応答がよく聞かれる。

8-3 Aのほうが大きいんじゃないの？／いや、Aじゃなくて、Bのほうが大きいんだよ。【YesNo 疑問・形容詞述語応答焦点】

- (89) a. Aisha ni m-refu zaidi, si ndi-yo
 1.Aisha COP 1-tall more NEG COP.FOC-RM9
 b. Aisha ni m-refu zaidi, si-vyo?
 1.Aisha COP 1-tall more NEG-RM8
 「Aishaのほうが大きいんだよね？」
- (89)’ a. Hapana, si Aisha, bali (ni) Fatma.
 no NEG 1.Aisha but (COP) 1.Fatma
 「いや、Aishaじゃなくて、Fatmaです。」
 b. Hapana, si Aisha, bali Fatma ndi-ye m-refu zaidi.
 no NEG 1.Aisha but 1.Fatma COP.FOC-RM1 1-tall more
 「いや、Aishaじゃなくて、Fatmaのほうが大きい。」

付加疑問文には、付加疑問を表す語句 *si ndiyo, si vyo* を文末につける。

8-4 (電話で) どうしたの？／うん、今、お客さんが来たんだ。【文焦点 (自動詞文)】

- (90) a. Vipi i-me-kuw-a-je?
 INTER SM9-PRF-be-FV-INTER
 「どうになりましたか？> どうしたの？」
 b. Ku-li-ko-ni?
 SM17-COP-EXT17-what
 「そこで何がありましたか？> 何かありましたか？／どうしたの？」
- (90)’ a. Ku-na m-geni a-me-kuj-a sasa.
 SM17-COM 1-guest SM1-PRF-come-FV now
 b. Ku-na m-geni amba-ye a-me-kuj-a sasa.
 SM17-COM 1-guest COMP-RM1 SM1-PRF-come-FV now
 「今、お客さんが来た。」

(90b)の *kulikonit* は「そこに～がある」という存在表現 *kuliko* に *nini* 「何」が接語化し、それが語彙化したものと考えられるが、「どうしたの？」という意味として用いられる。(90a)’は、関係接辞を用いることなく節で主名詞を修飾している例である。規範文法では(90b)’のように関係詞である *ambaye* を使って関係節が表されるが、関係節標識のない(90a)’のほうがより頻繁に用いられる。バントゥ諸語のなかには、主語の関係節化とそれ以外の関係節化に異なる形式が用いられるものがある。そのような言語において、ほとんどの場合、主語の関係節化のほうがそれ以外の関係節化に比べてより無標である⁸ (Yoneda 2024)。スワヒリ語は主語の関係節化とそれ以外の関係節化に同じ形式が用いられるが、*amba* が用いられない形式が認められるのは主語の関係節化のみである。(90a)’が示すように、主語の関係節化がより無標であるという現象がスワヒリ語にもみられるようである。

⁸ 具体的には、主語以外の関係節標識には形態素を用いるのに対して、主語の関係節化は声調や主名詞の接頭辞の交替で示される、といった例が報告されている (Yoneda 2024)。

8-5 あの子供が A を叩いたんだって!?! / いや，A じゃなくて，B を叩いたんだよ。【対比焦点（目的語）】

(91) Yule m-toto a-li-m-pig-a Aisha?

1.that 1-child SM1-PST-OM1SG-hit-FV 1.Aisha

「あの子供が Aisha を叩いたんですか。」

(91)' a. Hapana, si Aisha bali (ni) Fatma.

no NEG 1.Aisha but (COP) 1.Fatma

「いや，Aisha ではありません。Fatma です。」

b. Hapana, si Aisha bali (ni) Fatma a-li-ye-m-pig-a.

no NEG 1.Aisha but (COP) 1.Fatma SM1-PST-RM1-OM1-hit-FV

「いや，あの子が叩いたのは Aisha じゃなくて，Fatma です。」

c. Hapana, m-toto a-li-m-pig-a Fatma, si Aisha.

no 1-child SM1-PST-OM1-hit-FV 1.Fatma NEG 1.Aisha

「いや，子どもは Fatma を叩きました。Aisha ではありません。」

d. Hapana a-li-ye-pig-w-a ni Fatma si Aisha.

no SM1-PST-RM1-hit-PASS-FV COP 1.Fatma NEG 1.Aisha

「いや，叩かれたのは Fatma です，Aisha ではありません。」

(91a, b)'は，いずれも先行する問いで叩かれた人物として提示された *Aisha* を訂正して *Fatma* に焦点を置く構文である。(91a)'は(87)に見たコピュラを用いた *si Abali B* の形式によって対比を示し，(91b)'は関係接辞 *ye-*を含む関係節を用いて叩かれた人物を名詞句として提示している。(91c, d)'も同様に叩かれた人物として提示された *Aisha* を訂正して *Fatma* を焦点化しているが，(91c)'は通常の叙述文に *si Aisha* を後置した形式であるのに対し，(91d)'は受動形 *pig-w-a* を含む関係節によって叩かれた人物である被行為者を提示し，*si Aisha* を後置している。

8-6 赤い袋と青い袋があるけど，どっちを買うの? / (私は) 青い袋を買うよ。【対比焦点（目的語，特に「どっち」という対比的な疑問語の場合）】

(92) a. Ku-na m-fuko mwekundu na wa bluu u-pi u-ta-nunu-a?

SM16-COM 3-bag 3.red and 3.of blue 3-which SM2SG-FUT-buy-FV

b. Ku-na m-fuko mwekundu na wa bluu u-ta-nunu-a u-pi?

SM16-COM 3-bag 3.red and 3.of blue SM2SG-FUT-buy-FV 3-which

「赤い袋と青い袋があります。どっちを買うの?」

(92)' Ni-ta-nunu-a wa bluu.

SM1SG-FUT-buy-FV 3.of blue

「私は青いのをかうよ。」

選択肢がある疑問文には，*-pi*「どっちの」という疑問詞を用いる。*-pi*には目的語名詞に呼応した代名詞接頭辞が前接する。

8-7 Aはどこですか？／Aは朝からどっかへでかけたよ。【述語焦点】（例えば、朝少し遅く起きて来たAの父親が、姿の見えないAについて母親に尋ねている場面で）

(93) Aisha yu⁹-ko wapi?

1.Aisha PP1-EXT17 where

「Aishaはどこですか？」

(93)' a. Aisha a-me-ondok-a asubuhi.

1.Aisha SM1-PRF-leave-FV 9.morning

「Aishaは朝でかけたよ。（出かけることがわかっていた場合）」

b. Aisha a-li-ondok-a asubuhi.

1.Aisha SM1-PST-leave-FV 9.morning

「Aishaは朝でかけたよ。（出かけることを特に予期していなかった場合）」

Aisha がでかけるということが予めわかっていたり、予兆があった場合には(93a)'のように完了を表すTA接辞 *me-*が用いられ、そうでない場合は(93b)'のように単純過去を表すTA接辞 *li-*が用いられる。

8-8 （あの子供は）誰を叩いたの？／（あの子供は）自分の弟を叩いたんだ。【WH焦点（目的語）・WH応答焦点（目的語）】

(94) a. (M-toto yule) A-li-m-pig-a nani?

(1-child 1.that) SM1-PST-OM3SG-hit-FV who

「（あの子供は）誰を叩いたの？」

b. #Nani a-li-m-pig-a

who SM1-PST-OM3SG-hit-FV

「誰が彼を叩いたの？」

(94)' a. A-li-m-pig-a m-dogo wake.

SM3SG-PST-OM1-hit-FV 1-little 1.his

b. A-li-pig-a m-dogo wake.

SM3SG1-PST-hit-FV 1-little 1.his

「（あの子供は）自分の弟を叩いたんだ。」

(94b)に見られるように、*nani* を文頭に置く形式では *nani* は目的語ではなく主語として解釈される。また、(94b)'は目的語 *mdogo* 「弟」が有生名詞であり、(2)でみたように、本来、目的語接辞 *m-*を付けるのが必須であるはずだが、コンサルトはこの目的語接辞 *m-*がない形も容認した。

8-9 （電話で）どうしたの？／うん、Aが（自分の）弟を叩いたんだ。【文焦点（他動詞文）】（例えば、電話の向こうで子供の泣き声が起きたのを聞いての発話）

(95) Vipi?

INTER

「どうしたの？」

⁹ 現在形の存在文は「SM-存在辞 (*po/ko/mo*)」と構成されるが、主語名詞が1クラスに属する名詞の場合はこの構文に限り、例外的に主語接辞 (SM) *a-*の代わりに代名詞接頭辞 (PP) *yu-*が用いられる。

(95)' Aisha a-me-m-pig-a m-dogo wake.

1.Aisha SM1-PRF-hit-OM1-FV 1-little 1.his

「うん，Aisha が自分の弟を叩いたんだ。」

動作の影響がその時点でも続いている場合には完了を表す TA 接辞 *me-* が用いられる。たとえば，(95)' では，Aisha が叩くという行為の結果，「子どもが泣いている」という状況がその時点まで続いているため，完了を表す TA 接辞 *me-* が用いられている。

8-10 あのケーキ，どうした？／（ああ，あれは）A が食べちゃったよ。【目的語主題化，主題（目的語）の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

(96) a. Keki i-le i-ko wapi?

9.cake 9-that SM9-EXT17 where

「あのケーキはどこにありますか？」

b. Keki i-le i-me-end-a wapi?

9.cake 9-that SM9-PRF-go-FV where

「あのケーキはどこに行きましたか？> あのケーキはどこにありますか？」

(96)' Aisha a-li-i-l-a.

1.Aisha SM1-PST-OM9-eat-FV

「Aisha が（それを）食べました。」

(96)'では，目的語「それ（ケーキ）」が，9 クラス名詞に呼応する目的語接辞 *i-* で示されている。

8-11 私が昨日お店から買ってきたのはこの本だ。【分裂文】

(97) a. Ki-tabu ni-li-cho-nunu-a duka-ni jana ni (ki-tabu) hiki.

7-book SM1SG-PST-OM7-buy-FV 5.store-LOC yesterday COP (7-book) 7.this

「私が昨日お店で買った本はこれだ。」

b. Ni ki-tabu hiki ni-li-cho-nunu-a duka-ni jana.

COP 7-book 7.this SM1SG-PST-OM7-buy-FV 5.store-LOC yesterday

c. Ndi-cho ki-tabu hiki ni-li-cho-nunu-a duka-ni jana.

COP.FOC-RM7 7-book 7.this 1SG-PST-OM7-buy-FV 5.store-LOC yesterday

「私が昨日お店で買ったのはこの本だ。」

d. Hiki ndi-cho ki-tabu ni-li-cho-nunu-a duka-ni jana.

7.this COP.FOC-RM7 7-book 1SG-PST-OM7-buy-FV 5.store-LOC yesterday

「これが私が昨日お店で買った本だ。」

(97a-d)はいずれも関係節を含む分裂文であり，「私が昨日店で買った本」がどれであることを示している。(97a)は，関係節によって限定された名詞句 *kitabu nilichonunua* 「私が買った本」が文頭に提示され，その指示対象は *hiki* によって示されている。6-4a の(18)の例でも指摘したように，標準スワヒリ語では目的語の関係節化においては目的語接辞を伴うほうが規範であり，自然である。(97b)と(97c)はいずれもコピュラを文頭に置く分裂文であり，関係節 *nilichonunua* 「私が買った」によって限定された名詞句 *kitabu hiki* を示す形式をとる。(97b)はコピュラ *ni* を用いた中立的な同定文であるのに対し，(97c)はコピュラ *ndi* を用いて焦点を明確している。(97d) は指示語 *hiki* を文頭に置いた分裂文であり，焦点化された要素

を先に提示し、その後に関係節で限定された名詞句 *kitabu nilichonunua* 「私が買った本」を置く形式をとっている。

8-12 あの人は先生だ。この学校でもう 20 年働いている。【措定文 主題（名詞述語文の主語）の継続性 いわゆる pro-drop 言語の可能性】

(98) Yule ni mwalimu.

1.that COP 1.teacher

「あの人は先生だ。」

(98)' a. A-na-fany-a kazi katika shule hii kwa mi-aka ishirini.

SM3SG-PRS-do-FV 9.work in 9.school 9.this for 4-years twenty

b. A-me-fany-a kazi shule-ni hapa kwa mi-aka ishirini.

SM3SG-PRF-do-FV 9.work 9.school-LOC here for 4-years twenty

c. A-me-kuw-a a-ki-fany-a kazi katika shule hii kwa mi-aka ishirini.

SM3SG-PRF-be-FV SM3SG-SIML-be-FV 9.work in 9.school 9.this for 4-years twenty

「彼はこの学校で 20 年働いている。」

スワヒリ語では、主語名詞に一致する主語接辞が動詞の語頭についている。主語名詞が文中に現れていない場合には主語接辞は代名詞として機能する。そのため、主語名詞がなくても動詞文が成立する。したがって(98)'でも、「彼」を表す独立代名詞 *yeye* を文中に明示する必要はない。なお、*katika shule hii* 「この学校で」と *shuleni hapa* 「ここの学校で」は入れ替えが可能である。

8-13 彼のお父さんは、あの人だ。【倒置同定文】

(99) Baba yake ndi-ye yule.

1.father 1.his COP.FOC-RM1 1.that

「彼のお父さんは、あの人だ。」

(99)は倒置同定文であり、名詞句 *baba yake* を文頭に示し、コピュラ *ndiyo* を用いて *yule* がその対象を示している。

8-14 あの人が彼のお父さんだ。【同定文】

(100) a. Yule ni baba yake.

1.that COP 1.father 1.his

b. Yule ndi-ye baba yake.

1.that COP.FOC-RM1 1.father 1.his

「あの人が彼のお父さんだ。」

(100a)はコピュラの *ni* を用いて主語の叙述をする形式である。一方で(100b)は(99)で見た *ndiye* を用いて、主語が焦点化される。

8-15 あさってっていうのはね，明日の次の日のことだよ。【定義文】

- (101) 'Kesho_kutwa' ni siku baada ya kesho.
the.day.after.tomorrow COP 9.day 9.after 9.of tomorrow
「あさってっていうのはね，明日の次の日のことだ。」

「AはBである」という定義文には，コピュラ *ni* を伴ったコピュラ文が用いられる。

8-16 （何人かで入った喫茶店で注文を聞かれて）私はコーヒーだ。【ウナギ文】

- (102) a. Mimi kahawa.
1.SG 9.coffee
「私はコーヒーだ。」
b. *Mim ni kahawa.
1.SG COP 9.coffee

(102a)はコピュラの *ni* が入らないコピュラ文である。(102b)が示すようにコピュラ *ni* を入れると非文になる。

8-17 [(注文した数人分のお茶が運ばれてきて) どなたがコーヒーですか?との問いに] コーヒーは私だ。【逆行ウナギ文】

- (103) a. Kahawa nani?
9.coffee who
「コーヒーはどなたですか。」
b. *Kahawa ni nani?
9.coffee COP who
c. Kahawa ni ya nani.
9.coffee COP 9.of who
「コーヒーは誰のですか?」
d. Nani kahawa?
who 9.coffee
「どなたがコーヒーですか?」
e. *Nani ni kahawa?
who COP 9.coffee

- (103)' a. Kahawa mimi.
9.coffee 1.SG
「コーヒーは私だ。」
b. Mimi kahawa.
1.SG 9.coffee
「私はコーヒーだ。」
c. *Kahawa ni mimi.
9.coffee COP 1.SG

(103a, b)に示されるように、名詞 *kahawa* 「コーヒー」と疑問詞 *nani* 「誰」をコピュラ *ni* で直接繋ぐことはできない。一方、(103a)'のように *ya+nani* 「誰の」という句を用いて *kahawa* との所有関係を表す場合には *ni* を用いることができる。(103a)''の場合も *kahawa* と *mimi* はコピュラ *ni* で直接繋ぐことはできない。

8-18 その新しくて厚い本は (値段が) 高い。【形容詞述語文 修飾・並列・述語】

(104) Ki-tabu hicho ki-pya (na) ki-zito ni ghali.
7-book 7.that 7-new (and) 7-heavy COP expensive
「その新しくて厚い本は (値段が) 高い。」

スワヒリ語の形容詞述語文では、基本的に「主語+コピュラ *ni*+形容詞」の語順で表される。(104)では主名詞 *kitabu* 「本」と、それに呼応する指示詞 *hicho* 「その」、形容詞 *kipya* 「新しい」、*kizito* 「厚い」が後ろに並列して *kitabu* を修飾して主語となる名詞句を作っている。述語はコピュラ *ni* と形容詞 *ghali* 「高い」からなる。なお、(104)では *ghali* という「形容詞接頭辞を取らない形容詞」が用いられているが、主語名詞に後続する修飾語だけでなく、述語にある形容詞も主語名詞と文法呼応する。

8-19 (砂糖入れを開けて) あっ、砂糖が無くなっているよ！【意外性 (mirativity)】

(105) (Ala!) sukari i-me-kwish-a.
(INTJ) 9.sugar SM9-PRF-finish-FV
「あっ、砂糖が終わっているよ！」

(105)では、感嘆詞 *Ala!*によって驚きが表されている。完了を表す TA 接辞 *me-*は、事態の変化を含意し、「砂糖が既に無くなっている」という変化を表している。また、事態の変化を含意するという特徴から、意外性を表す場合には *me-*が用いられることが多い。

8-20 午後、誰かに会うはずだったなあ。誰だったっけ？ あっ、そうだ、～君だったな。【思い出し】

(106) a. Ni-li-tak-iw-a ku-m-ona m-tu mchana huu.
SM1SG-PST-want-PASS-FV INF-OM1-see 1-person 9.afternoon 9.this
b. Ni-li-tak-iw-a ku-onana na m-tu mchana huu.
SM1SG-PST-want-PASS-FV INF-see.RECP COM 1-person 9.afternoon 9.this
c. I-li-kuw-a ni-on-an-e na m-tu mchana huu.
SM9-PST-be-FV SM1SG-see-RECP-SBJV COM 1-person 9.afternoon this
「午後、誰かに会うはずだったなあ。」

(106)' a. Ni nani?
COP who
b. Ni nani vile?
COP who that
「誰だったっけ？」

(106)'' a. Ah, ni-me-kumbuk-a. Ni yeye.
INTER SM1SG-PRF-remember-FV COP 3SG
「ああ、思い出した、彼だった。」

b. Ah ni Ali.

INTER COP Ali

「ああ，Aliだ。」

c. (Ah,) kumbe, ni Ali.

(INTER) INTER COP Ali

「(ああ,) そうだ，Aliだ。」

「思い出し」を表すには完了を表す TA 接辞 *me-*を用いる。それまで思い出さなかったことを思い出す，という変化の含意があるためである。意外性を表すのに使われる *kumbe* は思い出しを表すのにも使われる。

6. 「情報標示の諸要素」(語研論集 第22号)

9-1 この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。

【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

(107) a. Mboga zi-na-ku-a vizuri katika ardhi hii.

10.vegetables SM10-PRS-grow-FV well in 9.land 9.this

b. Katika ardhi hii mboga zi-na-ku-a vizuri.

in 9.land 9.this 10.vegetables SM10-PRS-grow-FV well

「この土地は野菜がよく育つ。」

c. *Ardhi hii i-na-ku-a mboga vizuri.

(107)' Kwa hiyo ardhi i-ta-uz-w-a kwa bei kubwa.

for so 9.land SM9-FUT-sell-PASS-FV for 9.price 9.big

「だから高い値段で売れるだろう。」

(107a, b)は，語順が異なるが，どちらも「この土地は野菜がよく育つ」という意味を表す。(107a)では場所句 *katika ardhi hii*「この土地で」が文末に置かれており，(107b)では場所句が文頭に置かれている。*ardhi* は動作主として主語にとることができないため(107c)は非文となる。一方，例文(107)'では *ardhi* が受動態の主語となり統語的軸項として機能している。

9-2 私は頭が痛い。だから今日は休む。

【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外，統語的軸項としての機能】

(108) a. Ki-chwa ki-na-ni-um-a.

7-head SM7-PRS-OM1SG-hurt-FV

b. Ni-na-umw-a (na) ki-chwa.

SM1SG-PRS-be.sick-FV (by) 7-head

「私は頭が痛い。」

(108)' a. Kwa hivyo ni-na-pumzik-a.

for so SM1SG-PRS-rest-FV

「だから休む。」

b. Kwa hivyo si-end-i kazi-ni.

for so NEG.SM1SG-go-NEG.FV 9.work-LOC

「だから仕事に行かない。」

(108a)では身体部位である *kichwa* 「頭」, (108b)ではその所有者である「私」が主語となっている。(108a)では目的語接辞 *ni*によって身体部分の *kichwa* の所有者が「私」であることが表されている。

9-3 あの**人**だけ, 時間通りに来た。【限定】

- (109) Yeye peke yake a-li-kuj-a kwa wakati.
3SG 9.only 9.his SM1-PST-come-FV for time
「彼だけが時間通りに来た。」

限定を表す場合には *peke yake* 「だけ」を限定される要素の直後に置く。これは *peke* 「だけ」とそれを修飾する所有詞 *yake* からなり, 主に主語名詞を限定する場合に用いられる。

9-4 これは**ここ**でしか買えない。【限定・否定との共起】

- (110) a. U-na-wez-a ku-nunua hiki hapa tu.
SM2SG-PRS-be.able-FV INF-buy 7.this here only
「ここでだけこれを買うことができる。」
b. Hii i-na-nunul-ik-a hapa tu.
9.this SM7-PRS-buy-STT-FV here only
「これはここでだけ買える。」

(110a)は二人称単数形の主語接辞を使っている。二人称単数は、「あなた」を意味するわけではなく, 一般的な事実を表している。(110b)は *hii* 「これ」を主語にし, *nunua* 「買う」の状態形で表した肯定文にしている。いずれも動詞句を肯定形で表し, *tu* 「だけ」という副詞を用いて *hapa* 「ここ」という場所を限定している。

9-5 その家にいたのは子供**ばかり**だった。【限定・多数】

- (111) a. Wa-li-o-kuw-a-mo katika nyumba hiyo ni wa-toto tu.
SM2-PST-RM2-be-FV-EXT18 in 9.house 9.this COP 2-child only
b. Wa-li-o-kuw-a-po nyumba-ni hapo wa-li-kuw-a wa-toto tu.
SM2-PST-RM2-be-FV-EXT16 9.house-LOC there SM1PL-PST-be-FV 2-child only
c. Wa-li-o-kuw-a-po nyumba-ni hapo ni wa-toto tu.
SM2-PST-RM2-be-FV-EXT16 9.house-LOC there COP 2-child only
「その家にいたのは子供ばかりだった。」

「～ばかり」という表現は限定を表す *tu* 「だけ」を用いて表される。

9-6 次回**こそ**, 失敗ないようにしよう。【限定・強調】

- (112) a. Wakati mwingine tu-si-kos-e
time 1.another SM1PL-NEG-fail-SBJV
b. Wakati mwingine tu-si-fany-e ma-kosa.
time 1.another SM1PL-NEG-do-SBJV 6-mistake
「次回は, 失敗ないようにしよう。」

スワヒリ語には「こそ」にあたる表現は特にない。(114)のように否定接続法を用いて「～しないようにしよう」という、話者の意志や願望を表すことで限定を表している。

9-7 疲れたね，お茶でも飲もう。【反限定・例示】

- (113) a. Tu-me-chok-a, tu-nyw-e {ijapo/hata} chai.
SM1PL-PRF-be.tired-FV SM1PL-drink-SBJV {at.least/even} tea
- b. Tu-me-chok-a, tu-pat-e {ijapo/hata } chai.
SM1PL-PRF-be.tired-FV SM1PL-get-SBJV {at.least/even} tea
- c. Tu-me-chok-a, {si-yo/si-vyo} tu-nyw-e {ijapo/hata} chai.
SM1PL-PRF-be.tired-FV {NEG.COP-RM9/NEG-RM8} SM1PL-drink-SBJV {at.least/even} tea
- 「疲れたね，お茶でも飲もう。」

反限定「でも」にあたる表現には，*ijapo* 「せめて」，*hata* 「さえ」が用いられる。

9-8 水さえあれば，数日間は大丈夫だ。【極端・意外】

- (114) a. Tu-nge-pat-a {walau/ijapo} maji, tu-nge-wez-a ku-ishi kwa siku
SM1PL-IRR-get-FV at.least 6.water SM1PL-IRR-be.able-FV INF-live for 10.days
chache zaidi.
a.few more
- b. Tu-nge-pat-a maji tu, tu-nge-wez-a ku-ishi kwa siku mbili (au) tatu.
SM1PL-IRR-get-FV 6.water only SM1PL-IRR-be.able-FV INF-live for 10.days two (or) three
「水さえあれば，数日間は大丈夫だ。」

極端を表すには，*walau* 「さえ」，*ijapo* 「せめて」，もしくは，*tu* 「だけ」といった表現が用いられる。ただし，*tu* は，極端の意味よりも限定の意味の方が強く表れる。

9-9 小さい子供まで，その仕事の手伝いをさせられた。【極端・意外】

- (115) a. Hata wa-toto wa-dogo wa-li-lazimish-w-a ku-fanya kazi.
even 2-children 2-little SM1PL-PST-force-PASS-FV INF-do 9.work
「小さい子供さえ，その仕事の手伝いをさせられた。」
- b. Mpaka wa-toto wa-dogo wa-li-lazimish-w-a ku-fanya kazi.
till 2-children 2-little SM1PL-PST-force-PASS-FV INF-do 9.work
「小さい子供まで，その仕事の手伝いをさせられた。」

「～まで」という極端を表す場合にも，*hata* 「さえ」，*mpaka* 「まで」が用いられる。*mpaka* は空間的・時間的境界を表すが，それに加え，極端・意外の意味も表すことができる。

9-10 私はお金なんか欲しくない。【反極端・低評価】

- (116) a. Si-yo kama ni-na-tak-a pesa.
NEG.COP-RM9 as SM1SG-PRS-want-FV 9.money

- b. Wala si-tak-i pesa.
neither NEG.SM1SG-want-NEG.FV 9.money
「私はお金なんか欲しくない。」

スワヒリ語には「なんか」にあたる反極端を表す語は特に存在しないため、(116a)のように否定のコピュラの *siyo* を文頭に付けて後続の文を否定することで、「～なわけではない」という表現を用いる。また、(116b)は *wala* 「どれも～ない」に動詞の否定形を後続させる形式を用いる。単に「～ではない」という意味の *si* に対し、*wala* は1つではなく他のものの否定も含意し、「なんか～ではない」という意味を表す。

9-11 自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。【反極端・最低限】

- (117) a. Safish-a m-enyewe {(i)japo/walau/angalau} chumba chako.
clean-FV 1-with at.least 7.room 7.your
b. Safish-a angalau chumba chako (wewe) mwenyewe.
clean-FV at.least 7.room 7.your (2SG) 1.oneself
c. Angalau safish-a mwenyewe chumba chako.
at.least clean-FV 1.oneself 7.room 7.your
「自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。」

「ぐらい」を表すには、極端を表す*(i)japo, walau, angalau* などが用いられる。

9-12 私にもちょうだい。【類似・累加】

- (118) a. U-ni-p-e mimi pia.
SM2SG-OM1SG-give-SBJV 1SG also
b. Ni-p-e mimi pia.
OM1SG-give-SBJV 1SG also
「私にもちょうだい。」

類似・累加は、*pia* 「～も」によって表される。(118)は、いずれも依頼を表す文である。(118a)では接続形が用いられ、丁寧な命令・依頼を表す。一方、(118b)では命令形が用いられ、より直接的な命令を表す。なお、(118b)の語尾は接続形であるが、命令形は目的語接辞を伴う場合には接続語尾が用いられる。

9-13 お父さんもう帰って来たね。お母さんは？【反類似・対比（疑問）】

- (119) Baba a-mesha-rudi (tayari).
1.father SM1-COMPL-return (already)
「お父さんもう帰って来たね。」
(119)' a. (Na) Mama je?
(and) 1.mother INTER
b. Vipi kuhusu mama yako?
INTER about 1.mother 1.your
「お母さんは？」

(119a)'は「名詞句 + 疑問詞 *je*」という名詞句のみで構成される簡略的な疑問文である。この形式では，*baba*「お父さん」は帰ってきたという前提の上で，*mama*「お母さん」はどうか（帰って来たか）という内容が省略された形で表現されている。一方，(119b)'は *vipi*「どう」という疑問副詞および *kuhusu*「～について」という前置詞を用いた表現である。(119a)'に比べるとやや丁寧である。

9-14 誰か（が）電話してきたよ。【特定未知（specific unknown）】

- (120) Ku-na m-tu a-li-pig-a simu.
SM17-COM 1-person SM1-PST-hit-FV 9.phone
「電話をかけてきた人がいる > 誰か（が）電話してきたよ。」

主語が特定未知である場合，場所クラスを主語にした所有文（*kuna*～）を用いる。これは英語の‘there is’構文にあたる。(120)は，(90)の例と同じく，関係接辞を用いずに修飾節にしている例である。

9-15 誰かに聞いてみよう。【非現実不特定（irrealis non-specific）】

- (121) a. Tu-wa-uliz-e wa-tu.
SM1PL-OM2-ask-SBJV 2-person
「人々（誰か）に聞いてみよう。」
b. Tu-uliz-e.
SM1PL-ask-SBJV
「聞いてみよう。」
c. Tu-m-uliz-e m-tu.
SM1PL-OM1-ask-SBJV 1-person
d. Acha tu-m-uliz-e m-tu.
leave SM1PL-OM1-ask-SBJV 1-person
「誰かに聞いてみよう。」
e. #Tu-m-uliz-e.
SM1PL-OM1-ask-SBJV
「彼／彼女に聞いてみよう。」
e. *Tu-uliz-e m-tu.
SM1PL-ask-SBJV 1-person

「誰かに」という非現実不特定の目的語を表す場合は，*mtu/watu*がを用いられる。これらは「人/人々」を表す名詞であるが，誰か」という不定名詞としても用いられる。(121a-d)はいずれも「誰かに尋ねてみよう」の意味であるが，(121d)のように英語の‘leave’にあたる動詞 *acha* を付け加えることで‘let’s’「～してみよう」という意思・願望の意味が明確になる。なお，(121d)のように目的語名詞が現れておらず目的語接辞だけが入っている場合は，聞く相手が「誰か」ではなく，すでに相手が特定されていることになる。また(121e)は *mtu* に一致した目的語接辞 *m-* がいないため非文となる。

9-16 私のいない間に誰か来た？【疑問（question）】

- (122) a. Ku-na m-tu a-li-kuj-a wakati (mimi) si-po?
SM17-COM 1-person SM1-PST-come-FV when (1.SG) NEG.SM1SG-EXT16
「私のいない間に誰か来た？」

- b. *Ku-na m-tu a-li-kuj-a ni-ki-w-a si-po?
SM17-COM 1-person SM1-PST-come-FV SM1SG-SIML-be-FV NEG.SM1SG-EXT16

sipo は、一人称単数形の否定主語接辞に存在辞の *-po* が後接し、存在の否定を表している。(122a)では、*wakati* 「～のとき」の後ろにこれを続けて「私がいないときに」という副詞節にしている。一方、(122b)で用いられている *nikiwa* は、動詞 *wa* 「～である／存在する」に同時を表す TA 接辞 *-ki-* が付加された形式であり、主節で表される事象と時間的に同時である状態を表す。存在を前提とする *nikiwa* と *sipo* は共起できない。そのため(122b)は非文である。ただし、日常会話では *nikiwa sipo* も聞かれる。

9-17 誰か来たら、私に教えてください。【条件節内 (conditional)】

- (123) a. A-ki-ja m-tu (yeyote) u-ni-ambi-e.
SM1-PST-come-FV 1-person (1.any) SM2SG-OM1SG-tell-SBJV
b. M-tu (yeyote) a-ki-j-a, (tafadhali) u-ni-ambi-e.
1-person (1.any) SM1-COND-come-FV (please) SM2SG-OM1SG-tell-SBJV
「誰か来たら、私に教えてください」

9-18 今日は誰も来るとは思わない。／今日は誰も来ないと思う。【間接 (全部) 否定 (indirect negation)】

- (124) a. Si-dhan-i kama ku-na m-tu (yeyote) a-taka-ye-kuj-a.
NEG.SM1SG-think-NEG.FV if SM17-COM 1-person (1.any) SM1-FUT.REL-RM1-come-FV
b. Si-dhan-i kama ku-na m-tu (yeyote) a-na-kuj-a leo.
NEG.SM1SG-think-NEG.FV if SM17-COM 1-person (1.any) SM1-PRS-come-FV today
「私は今日は誰か来るとは思わない。」
c. N-a-dhani ha-ku-na m-tu (yeyote) a-taka-ye-kuj-a leo.
SM1SG-PRS-think NEG-SM17-COM 1-person (1.any) SM1-FUT.REL-RM1-come-FV today
「私は今日は誰も来ないと思う。」
d. Si-dhan-i mtu (yeyote) a-ta-kuj-a leo.
NEG.SM1SG-think-NEG.FV 1-person (1.any) SM3SG-FUT-come-FV today
「今日は誰も来るとは思わない。」

(124d)はコンサルタントによると文法的に間違いではないが、あまり使われないとのことである。

9-19 そこには今誰もいないよ。【直接 (全部) 否定 (direct negation)】

- (125) Ha-ku-na m-tu huko sasa.
NEG-SM17-COM 1-person there now
「そこには今誰もいない。」

(125)では(120)で用いたのと同じく、場所クラスの主語接辞に随伴の *-na* を付けた所有文 (いわゆる 'there is' 構文) の否定形が用いられている。

9-20 (それは) **誰でも**できる. 【自由選択 (free-choice)】

- (126) M-tu yeyote a-na-wez-a.
1-person 1.any SM1-PRS-be.able-FV
「誰でもできる。」

文脈があれば *weza* 「～できる」の目的語となる名詞句や不定形動詞は省略できる.

9-21 そんなこと (は), **みんな**知っているんじゃないか!?! 【自由選択を示す「みんな」】

- (127) a. Na-dhani kila m-tu a-na-ju-a hayo.
SM1SG.PRS-think every 1-person SM1-PRS-know-FV 6.that
「私はみんなそれを知っていると思います。」
b. Kila m-tu a-na-ju-a hilo.
every 1-person SM1-PRS-know-FV 5.that
「みんなそれを知っている。」

英語の‘every’にあたる *kila* の後ろには常に単数形が後続する.

9-22 そんなもの, **誰**が買うんだよ!?! 誰も買うわけじゃないか! 【反語】

- (128) a. Nani a-ta-nunu-a ki-tu kama hicho!
who SM3SG-FUT-buy-FV 7-thing as 7.that
b. Nani a-nge-nunu-a ki-tu kama hicho!
who SM3SG-IRR-buy-FV 7-thing as 7.that
c. Nani a-na-tak-a ku-nunua ki-tu kama hicho!
who SM3SG-PRS-want-FV INF-buy 7-thing as 7.that
d. Nani a-na-wez-a ku-nunua ki-tu kama hicho!
who SM3SG-PRS-be.able-FV INF-buy 7-thing as 7.that
「そんなもの誰が買うの!」
(128)' Ha-ku-na m-tu a-taka-ye-nunu-a.
NEG-SM17-COM 1-person SM1-FUT.REL-RM1-buy-FV
「買う人はいない。」

「～するんだよ (するわけない)」という表現には, 未来形, もしくは仮想形の TA 接辞が用いられる.
また, 「～するわけがない」という表現には, (128)'のように場所クラスの主語接辞の前に否定辞を付けた所有文の否定形が用いられ, 「そんな人はいない」と表現される.

9-23 君は英語がうまい**ね**. 【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

- (129) a. U-na-onge-a Ki-ingereza vizuri.
SM2SG-PRS-speak-FV 7-English well
「君は英語をうまく話すね。」
b. U-na-ju-a Ki-ingereza vizuri.
SM2SG-PRS-know-FV 7-English well
「君は英語をよく知っているね。」

9-24 君は退屈そうだね。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

- (130) a. U-na-on-ikan-a u-me-chok-a.
SM2SG-PRS-see-POT-FV SM2SG-PRF-be.tired-FV
b. U-na-on-ikan-a ku-choka.
SM2SG-PRS-see-POT-FV INF-be.tired
「君は退屈そうに見える。」

(130a)では、従属節「君が退屈している」を接続形で表している。主語と従属節の主語が同じ場合には(130b)のように従属節の代わりに動詞の不定形を用いることもできる。ただし、主語が同じ場合でも、(130a)のように接続形を用いて主節と従属節のそれぞれに主語を明示する形式の方が好まれる。

9-25 明日も寒いらしいよ。【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

- (131) a. Wa-na-sem-a ku-ta-kuw-a na baridi kesho pia.
SM1PL-PRS-say-FV SM17-FUT-be-FV COM cold tomorrow also
「人々は、明日も寒くなるだろうと言っています。」
b. I-na-sem-w-a ku-ta-kuw-a na baridi kesho pia.
SM9-PRS-say-PASS-FV SM17-FUT-be-FV COM cold tomorrow also
「明日も寒くなるだろうと言われています。」
c. I-na-sem-ikan-a ku-ta-kuw-a na baridi tena kesho.
SM9-PRS-say-POT-FV SM17-FUT-be-FV COM cold again tomorrow
「明日も寒くなると言える。」
d. I-na-on-ikan-a ku-ta-kuw-a na baridi tena kesho.
SM9-PRS-see-POT-FV SM17-FUT-be-FV COM cold again tomorrow
「明日はまた寒くなるように見えます(思えます)。」

伝聞を表す表現には *watu* 「人々 (2クラス)」に一致する2クラスの主語接辞 *wa-*を用いるものと、非人称主語 *i-* (9クラス)を用いるものがある。(131b)は非人称主語を用いて「～と言われている」という伝聞を表す。(131c)は, *sema* の可能形を用いて「言える」という可能の意味を表す。(131d)は動詞 *ona* 「見る」を用いて、非人称主語を用いて「～のように見える」という知覚に基づいた推量的な意味を表す。

7. 「否定, 形容詞と連体修飾複文」(語研論集 第23号)

10-1 これは私の本ではない。【名詞述語文/コピュラ文の否定】

- (132) a. Hiki si-yo ki-tabu changu.
7.this NEG.COP-RM9 7-book 7.my
「これは私の本ではない。」
b. Hiki si ki-tabu changu.
7.this NEG.COP 7-book 7.my
「これは私の本ではない。」
c. Ki-tabu hiki si changu.
7-book 7.this NEG.COP 7.my
「この本は私の本ではない。」

コピュラ文の否定には否定のコピュラ *siyo*, *si* を用いる。

10-2 この部屋には椅子がない。【存在文の否定】

- (133) a. Chumba hiki ha-ki-na ki-ti.
7.room 7.this NEG-SM7-COM 7-chair
b. Ha-ku-na ki-ti katika chumba hiki.
NEG-SM17-COM 7-chair in 7.room 7.this
「この部屋には椅子がない。」

(133a)は部屋を主語にした所有文の否定形，(133b)は場所を主語にした所有文の否定形である。

10-3 この部屋には一つも椅子がない。【全部否定・モノ】

- (134) a. Chumba hiki ha-ki-na ki-ti chochote.
7.room 7.this NEG-SM7-COM 7-chair 7.any
b. Chumba hiki ha-ki-na ki-ti hata ki-moja.
7.room 7.this NEG-SM7-COM 7-chair even 7-one
「この部屋には一つも椅子がない。」

全部否定は，(134a)のように *-o-ote* 「どんな～にも（英語の‘any’）」という表現や(134b)のように *hata kimoja* 「一つも」といった表現を否定文と共起させることで表される。

10-4 その部屋には誰もいない。【全部否定・ヒト】

- (135) a. Ha-m-na m-tu yeyote katika chumba hiki.
NEG-SM18-COM 1-person 1.any in 7.room 7.this
b. Ha-m-na m-tu yeyote chumba-ni humo.
NEG-SM18-COM 1-person 1.any 7.room-LOC 18.there
「その部屋には誰もいない。」

(135)の例と同様に「否定+*-o-ote*」という形式で全部否定を表す。主語がモノ・ヒトの場合による形式の差異はない。

10-5 その本はこの部屋にない。【所在文の否定】

- (136) a. Ki-tabu hicho ha-ki-mo katika chumba hiki.
7.book 7.that NEG-SM7-EXT18 in 7.room 7.this
b. Ki-tabu hicho ha-ki-mo chumba-ni humu.
7.book 7.that NEG-SM7-EXT18 7.room-LOC 18.this
「その本はこの部屋にない。」

所在文の否定は，「否定辞 + 主語接辞 + 場所辞」という否定の存在文を用いて表す。

10-6 この犬は大きくない。【形容詞文の否定】

- (137) Mbwa huyu si m-kubwa.
1.dog 1.this NEG.COP 1-big
「この犬は大きくない。」

形容詞文の否定にも否定のコピュラ *si* が用いられる。また、述語に用いられる形容詞にも主語名詞のクラスに呼応した接頭辞が付く。

10-7 この犬はあまり大きくない。【形容詞文の部分否定】

- (138) Mbwa huyu si m-kubwa sana.
1.dog 1.this NEG.COP 1-big very
「この犬はあまり大きくない。」

形容詞文の部分否定は、形容詞 + 副詞 *sana* 「とても」の前に否定のコピュラ *si* を付けて表わす。

10-8 この犬はあの犬より大きい。【比較級】

- (139) Mbwa huyu m-kubwa kuliko yule.
1.dog 1.this 1-big than 1.that
「この犬はあの犬より大きい。」

比較の表現には *kuliko* 「～より」という前置詞を用いる。

10-9 この犬がその犬たちの中で一番大きい。【最上級】

- (140) a. Mbwa huyu m-kubwa zaidi kuliko wengine kati ya mbwa hao.
1.dog 1.this 1-big more than 2.other 9.middle 9.of 2.dogs 2.those
「この犬はその犬たちの中で他の犬たちよりより大きい。」
b. Kati ya mbwa hao, huyu ndi-ye m-kubwa zaidi.
9.middle 9.of 2.dogs 2.those 1.this COP.FOC-RM1 1-big more
「この犬がその犬たちの中でより大きい。」

スワヒリ語には最上級を表す形式がなく、比較級を用いて表される。(140a)は比較の表現を用いて最上級を表す例である。比較対象として *wengine* 「他の人」を明示し、「他の～よりも」という意味を付与することで最上級が表されている。(140b)は、副詞 *zaidi* 「～より」を用いた形式である。*kati ya* 「～の中で」で比較範囲が限定され、形容詞 *-kubwa* 「大きい」に *zaidi* を付けて「～の中でより大きい」という意味を表す。これによって、他のどれよりも大きいという最上級の表現になる。

10-10 今日はあの人は来ない。【自動詞文の否定】

- (141) Ha-j-i leo.
NEG.SM3SG-come-NEG.FV today
「今日は彼は来ない。」

10-11 あの人はその本を持って行かなかった。【他動詞文の否定】

- (142) a. Ha-ku-chuku-a ki-tabu hicho.
NEG.SM3SG-NEG.PST-take-FV 7-book 7.that
「彼はその本を持って行かなかった。」
- b. Ha-ku-beb-a ki-tabu hicho.
NEG.SM3SG-NEG.PST-carry-FV 7-book 7.that
「彼はその本を運ばなかった。」
- c. Ha-ku-end-a na ki-tabu hicho.
NEG.SM3SG-NEG.PST-go-FV COM 7-book 7.that
- d. Ha-ku-end-a na-cho ki-tabu hicho.
NEG.SM3SG-NEG.PST-go-FV COM-RM7 7-book 7.that
「彼はその本を持って行かなかった。」

(142a, b)は, *chukua*「取る／持っていく」, *beba*「運ぶ」という他動詞を用いた文, (142c, d)は *enda*「行く」という自動詞に「本と共に」という表現を続けた文である。(142a)では「持参する」ということが中心に表されるのに対し, (142c, d)では「行く」ことが中心であり, *na*によって随伴の意味が付加されている。いずれも否定の形に違いはなく, 主語接辞の前に否定辞を付け, TA 接辞を否定形にしている。

10-12 全ての学生が参加しなかった。／学生は全員参加しなかった。【数量の全部否定】

- (143) Wanafunzi wote hawa-ku-hudhuri-a.
2.students 2.all NEG.SM2-NEG.PST-attend-FV
「全ての学生が参加しなかった。」

-ote「全て」と否定文で数量の全否定を表す。

10-13 全ての学生が参加したわけではない。【数量の部分否定】

- (144) a. {Si-yo/Si} (kama) wanafunzi wote wa-li-hudhuri-a.
{NEG.COP-RM9/NEG.COP} (if) 2.students 2.all SM2-PST-attend-FV
「全ての学生が参加したわけではない。」
- b. {Si-o/Si} wanafunzi wote wa-li-o-hudhuri-a.
{NEG.COP-RM2/NEG.COP} 2.students 2.all SM2-PST-RM2-attend-FV
「参加したのは学生全てではない」

(144a)のように, 数量の部分否定を表すには文頭に否定のコピュラの *siyo/si* を用いる。(144b)は参加した学生を否定する文になり, (144a)とは意味が異なる。

10-14 (私は買わなかった。しかし、決して) 値段が高いというわけではない。【文の否定】

- (145) a. Lakini ha-i-maan-ish-i bei yake ni kubwa.
but NEG-SM9-mean-CAUS-NEG.FV 9.price 9.its COP 9.big
- b. Lakini ha-i-maan-ish-i (kuwa) ni ghali.
but NEG-SM9-mean-CAUS-NEG.FV (COMP) COP expensive
「しかし、値段が高いというわけではない。」
- c. Si-yo kwa sababu ya bei.
NEG.COP-RM9 for 9.reason 9.of 9.price
「値段のせいではない。」

(145a)と(145b)の例は、いずれも動詞 *maanisha* 「意味する」を否定形 *haimaanishi* 「～というわけではない」にすることで、後続部分を否定している。(145b)は補文標識 *kuwa* を挿入し、*ni ghali* 「高価である」という形容詞文の述語を従えている。(145c)は否定コピュラ *siyo* を前置詞句 *kwa sababu ya bei* 「値段のせいで」の前に付け、「原因」を否定の焦点にしている。

10-15 走るな！【禁止】

- (146) U-si-kimbi-e.
SM2SG-NEG-run-SBJV
「走るな！」

10-16 大きな声を出すな！【他動詞文の禁止】

- (147) U-si-pig-e kelele.
SM2SG-NEG-hit-SBJV 9.noise
「大きな声を出すな！」

スワヒリ語には命令法に否定形はない。禁止や否定の命令は否定の接続形を用いて表される。

10-17 明日は雨は降らないだろう。【推量の否定】

- (148) Kesho labda mvua ha-i-ta-nyesh-a.
tomorrow maybe 9.rain NEG-SM9-FUT-rain-FV
「おそらく明日は雨は降らないだろう。」

推量の否定を表すには、*labda* 「おそらく」のような副詞と一緒に否定文を用いる。

10-18 あの人に聞こえないように、小さな声で話してくれ。【目的節の否定】

- (149) a. U-ongee kwa sauti ndogo ili a-si-siki-e.
SM2SG-speak-SBJV with 9.voice 9.small so.that SM3SG-NEG-hear-SBJV
「彼に聞こえないように、小さな声で話してください。」
- b. U-ni-ng'onez-e ili a-si-siki-e.
SM2SG-OM1SG-whisper-SBJV so.that SM3SG-NEG-hear-SBJV
「彼に聞こえないように、私にささやいてください。」

目的を表す接続詞は「*ili* + 接続形」で表される。(151)のよう目的節が否定の場合は、「*ili* + 否定の接続形」が用いられる。

10-19 私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。【否定のスコープの調節】

- (150) a. Si-ja-sem-a hiyo ili (wewe) u-kasirik-e.
NEG.SM1SG-NEG.PRF-say-FV 9.that so.that (2SG) SM2SG-get.angry-SBJV
b. Si-ku-sem-a hivyo ili ni-ku-kasir-ish-e.
NEG.SM1SG-NEG.PRF-say-FV that so.that SM1SG-OM2SG-get.angry-CAUS-SBJV
「私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。」

(150)の文はいずれも「君を怒らせるためにそう言わなかった」の意にも解釈されうる，いわゆるあいまい文である。(150)は，動詞 *kasirika* 「怒る」は自動詞形であり，怒る主体者は「あなた」である。一方，(150b)で用いられている動詞は *kasirisha* 「怒らせる」であり，これは *kasirika* 「怒る」に使役形派生接辞が付くことで他動詞化されている。ここでは，誰かを怒らせる主体は「私」である。いずれも「～しないように」という否定の目的が接続法で表されている。なお，(150a)では未完了を表す TA 接辞 *ja-*，(150b)では否定の過去を表す TA 接辞 *ku-*がそれぞれ用いられているが，これらの入れ替えは可能である。TA 接辞 *ja-*を用いる場合は，相手がまだ怒っていたり，「怒る」という行為の影響が発話の時点でも続いていることが表される。TA 接辞 *ku-*は，過去のある時点での行為を否定している。

10-20 私が昨日買った本はどこ（にある）？【内の関係の連体修飾節・目的語】

- (151) Ki-tabu ni-li-cho-nunu-a jana ki-ko wapi?
7-book SM1SG-PST-RM7-buy-FV yesterday SM7-EXT17 where
「私が昨日買った本はどこ（にある）？」

10-21 その本を持って来た人は誰（か）？【内の関係の連体修飾節・主語】

- (152) a. Nani a-li-let-a ki-tabu hiki?
who SM3SG-PST-bring-FV 7-book 7.this
b. Ni nani a-li-ye-let-a ki-tabu hiki?
COP who SM3SG-PST-RM1-bring-FV 7-book 7.this

スワヒリ語の関係節は主名詞に一致する関係接辞 (RM) によってマークされる。(151)，(152)はそれぞれ目的語，主語の関係節化の例であるが，いずれの場合も，動詞に関係接辞が付加されるという点で，同一の形式によって表されている ((90*)の説明も参照のこと)。

10-22 この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。【内の関係の連体修飾節・場所】

- (153) a. Chumba hiki ndi-cho ni-na-cho-fany-i-a kazi.
7.room 7.this COP-RM1 SM1SG-PRS-RM7-do-APPL-FV 9.work
b. Chumba hiki ndi-cho ni-na-po-fany-i-a kazi.
7.room 7.this COP-RM1 SM1SG-PRS-RM16-do-APPL-FV 9.work
「この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。」

(153a)は *chumba* 「部屋」という 7 クラス名詞に一致した関係接辞が入った例，(153b)は 16 クラスの場

所クラスの関係接辞が入った例である。どちらも同じ意味で用いることが可能である。

10-23 足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった。【内の関係の連体修飾節・所有者】

- (154) a. Ni-mesha-tup-a ki-ti kile amba-cho m-guu (wake) u-me-vunjik-a.
SM1SG-COMPV-throw-FV 7-chair 7.that COMP-RM7 3-leg (3.its) SM3-PRF-broken-FV
b. Ni-mesha-tup-a ki-ti kile amba-cho ki-me-vunj-ik-a m-guu (wake).
SM1SG-COMPV-throw-FV 7-chair 7.that COMP-RM7 SM2SG-PRF-broken-FV 3-leg (3.its)
「足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった。」

10-24 ドアを叩いている音が聞こえる。【外の関係の連体修飾節】

- (155) a. Ni-na-m-siki-a m-tu a-na-gong-a m-lango.
SM1SG-PRS-OM3SG-hear-FV 1-person SM1-PRS-knock-FV 3-door
b. Ni-na-m-siki-a m-tu a-ki-gong-a m-lango.
SM1SG-PRS-OM3SG-hear-FV 1-person SM1-SIML-knock-FV 3-door
c. Ni-na-siki-a sauti m-tu ku-gonga m-lango.
SM1SG-PRS-hear-FV 9.sound 1-person INF-knock 3-door
「誰かがドアを叩いている音が聞こえる。」

(155)はいずれも「誰かがドアをノックしている音が聞こえる」という意味で用いられる。この日本語訳からは「外の関係」のように見えるが、これは同時形、すなわち主節と従属節が同時に起きていることを表している複文であり、「私は誰かがドアを叩いているところを見た」といった表現と同じである。したがって関係節ではない。

10-25 あの人が結婚したという噂は本当 (か) ? 【外の関係の連体修飾節】

- (156) a. Habari kuwa m-tu yule a-me-o-a ni kweli?
9.news COMP 1-person 1.that SM1-PRF-marry-FV COP true
b. Habari kwamba m-tu yule a-me-fung-a ndoa ni kweli?
9.news COMP 1-person 1.that SM1-PRF-close-FV marriage COP true
c. Habari i-na-yo-sem-a m-tu yule a-me-o-a ni kweli?
9.news SM1-PRF-RM9-say-FV 1-person 1.that SM1-PRF-marry-FV COP true
「あの人が結婚したという噂は本当 (か) ?」
d. *Habari amba-yo m-tu yule a-me-fung-a ndoa ni kweli?
9.news COMP-RM9 1-person 1.that SM1-PRF-close-FV marriage COP true

(156a)に用いられている *kuwa* と(156b)に用いられている *kwamba* は、いずれも動詞補文マーカである。*kuwa* は *be* 動詞の不定形、*kwamba* は動詞 *amba* 「言う」の不定形がそれぞれ文法化したものである。(156c)は、「噂は『あの人が結婚した』と言っている」という文の主語を関係節化したものであり、「内の関係」の関係節である。既述のようにスワヒリ語の関係節は関係節辞 (RM) によってマークされるが、その関係接辞を主名詞の直後に挿入された *amba*-に後接するもの (*amba* 関係節, (156d)) と動詞内に構成要素として組み込むのも (*amba-less* 関係節, (156c)) の2種類に分けられる。後者が「内の関係」しか修飾できないのに対して、前者の *amba* 関係節は「内の関係」だけでなく「外の関係」も修飾できることが報告されている (米田 2012, 2014, 2021, Yoneda 2018, 2024)。補文マーカとしては、名詞補文 (内

容補充の「外の関係」には *amba*-RM, 動詞補文には *kwamba* が用いられる。2016年に筆者2が行った調査では、名詞補文に動詞補文マーカークの *kwamba* や *kuwa* を用いることを容認するスワヒリ話者と容認しない話者に分かれていたが、*amba* 関係節を用いることはすべての話者が「正しい」としていた。しかしながら今回のコンサルタントは、名詞補文に動詞補文マーカークを用いた(156a, b)の例が最初に出てきており、*amba* 関係節を用いた(156d)は非文であるとしている。動詞補文に用いられる補文マーカーク *kwamba* が名詞補文にも用いられるようになっていることは Yoneda (2018: 456)でも報告されているが、今回の調査結果を見ると、その傾向はさらに進んでいるようである。

10-26 私はその人が来た時にご飯を食べていた。【時間節】

- (157) a. M-tu huyo a-li-po-kuj-a ni-li-kuw-a ni-na-kul-a.
1-person 1.that SM1-PST-RM16-come-FV SM1SG-PST-be-FV SM1SG-PRS-eat-FV
b. M-tu huyo a-li-po-kuj-a ni-li-kuw-a ni-ki-l-a.
1-person 1.that SM1SG-PST-RM16-come-FV SM1SG-PST-be-FV SM1SG-SIML-eat-FV
c. A-li-po-kuj-a m-tu huyo ni-li-kuw-a ni-na-kul-a.
SM1-PST-RM16-come-FV 1-person 1.that SM1SG-PST-be-FV SM1SG-PRS-eat-FV
d. Ni-li-kuw-a ni-ki-l-a a-li-po-kuj-a m-tu huyo.
SM1SG-PST-be-FV SM1SG-SIML-eat-FV SM1-PST-RM16-come-FV 1-person 1.that
「私はその人が来た時に食事をしていた。」

時を表す従属節では16クラス(場所クラス)に一致した関係接辞 *-po* が用いられる。語順は、(157a-c)のように時間節が先行する文がより自然である。

10-27 私はその人が待っている所に行った。【場所節】

- (158) a. Ni-li-kwend-a mahali a-li-po-ni-subiri m-tu huyo.
SM1SG-PST-go-FV 16.place SM1PST-RM16-OM1SG-wait-FV 1-person 1.that
b. Ni-li-kwend-a mahali amba-po m-tu huyo a-li-kuw-a a-ki-ni-subiri.
SM1SG-PST-go-FV 16.place COMP-16 1-person 1.that SM1-PST-be-FV SM1-SIML-OM1SG-wait
「私はその人が待っている所に行った。」

(158a)は関係節辞を動詞の内部に付した関係節、(158b)は主名詞の後ろに関係詞 *amba*-を挿入し、そこに関係節辞を付けた例である。*-po* は空間、時間の両方に使われるため、曖昧さを避けるために名詞 *mahali* 「場所」が先行詞として用いられるが、文脈から空間の場所節となることがはっきりわかっているならば、*mahali* は必須の要素ではない。

10-28 私はその人が走っていったのを見た。【補文節・視覚】

- (159) a. Ni-li-m-on-a m-tu huyo a-ki-kimbi-a.
SM1SG-PST-OM1-see-FV 1-person 1.that SM1-SIML-run-FV
b. Ni-li-m-on-a m-tu huyo a-na-kimbi-a.
SM1SG-PST-OM1-see-FV 1-person 1.that SM1-PRS-run-FV
「私はその人が走っていったのを見た。」

(159)では *ona* 「見る」が用いられ、補文節が動詞 *ona* 「見る」の目的内容を表している。(159a)は、同

時を表す TA 接辞 *ki* によって, *kimbia* 「走る」という行為が過去のある時点で同時進行中であったことが示されている. 一方, (159b)では, TA 接辞 *na* が用いられている. (55)で見たように, *na* は現在時制を表す TA 接辞であるが, 進行を表す場合にも用いられる. ここでは(159a)と同じ意味で用いられている.

10-29 昨日の夜, 私は彼らがしゃべっているのを聞いた. 【補文節・聴覚】

- (160) a. Ni-li-wa-siki-a wa-ki-onge-a.
SM1SG-PST-OM3PL-hear-FV SM3PL-SIML-speak-FV
b. Ni-li-wa-siki-a wa-na-onge-a.
SM1SG-PST-OM3PL-hear-FV SM3PL-PRS-speak-FV
「私は彼らが話しているのを聞いた。」

(160)では *sikia* 「聞く」が用いられ, 補文節が動詞 *sikia* 「聞く」の目的内容を表している. (160a)と同様に, (160a)は同時を表す TA 接辞 *ki* が付加され, *sikia* 「聞く」と *ongea* 「話す」という行為が過去のある時点で同時進行中であったことを表している. (160b)も(160b)と同様に, 進行を表す TA 接辞 *na* が用いられ, (160a)と同じく, 行為が同時進行中であったことを表している.

10-30 私はその人が昨日ここに来たことを知っている. 【補文節・知識】

- (161) Ni-na-ju-a ({kwamba/kuwa}) m-tu huyo a-li-kuj-a hapa jana.
SM1SG-PRS-know-FV (COMP) 1-person 1.that SM1-PST-come-FV here yesterday
「私はその人が昨日ここに来たことを知っている。」

(161)では, 知覚動詞 *juu* 「知っている」が用いられ, 動詞補文標識の *kwamba* や *kuwa* に導かれたに補文節が動詞 *juu* の目的内容を表している. 補文標識は必須ではない.

10-31 (昨日) 彼は彼が今日ここに来たと言った. / (昨日) 彼は, 「私は今日ここに来た」と言った.

【補文節・直接発話/間接話法】

- (162) a. A-li-sem-a (jana) (kwamba) 'ni-me-kuj-a hapa leo'.
SM3SG-PST-say-FV (yesterday) (COMP) 'SM1SG-PRF-come-FV here today'
b. A-li-sem-a (jana) (kwamba) a-me-kuj-a hapa siku hiyo.
SM3SG-PST-say-FV (yesterday) (COMP) SM3SG-PRF-come-FV here 9.day 9.that
「(昨日) 彼は彼が今日ここに来たと言った。」

(162)では, 動詞 *sema* 「言う」が用いられ, 動詞補文標識の *kwamba* 導かれたに, 補文節が動詞 *sema* の目的内容を表している. 補文標識は必須ではない.

10-32 私はリンゴが (あの) 皿の上にあったのを食べた. 【内在節・従主・主主】

- (163) a. Ni-li-kul-a tufaha li-li-lo-kuw-e-po kwenye sahani (ile).
SM1SG-PST-eat-FV 5.apple SM5-PST-RM5-be-FV-EXT16 on 9.plate (9.that)
b. Ni-li-kul-a tufaha li-li-lo-kuw-e-mo katika sahani (ile).
SM1SG-PST-eat-FV 5.apple SM5-PST-RM5-be-FV-EXT18 in 9.plate (9.that)

- c. Ni-li-kul-a tufaha li-li-lo-kuw-e-mo sahani-ni (mle).
SM1SG-PST-eat-FV 5.apple SM5-PST-RM5-be-FV-EXT18 9.plate-LOC (18.that)
「私は皿の上にあったリンゴを食べた。」

場所を表すためには *kwenye* 「上に」, *katika* 「中に」, *ndani ya* 「中に」といった場所を表す前置詞が名詞の前に置かれるが ((163a)と(163b)ではこれらのいずれも交替可能である), (163c)のように名詞 *sahani* に場所辞-*ni* が後接する場合には、これらの前置詞は現れない。

10-33 私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。【内在節・従主・主目】

- (164) Ni-li-m-kamat-a paka a-ki-ingi-a nyumba-ni.
SM1SG-PST-OM1-catch-FV 1.cat SM1-SIML-enter-FV 9.house-LOC
私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。」

(164)の内在節 *akiingia* で用いられている *ki-*は、同時を表す TA 接辞である。(164)では、主節の動作 *kamata* 「捕まえる」と内在節の動作 *ingia* 「入る」が同時に行われたことを表す。その結果、「ネコが入ってきた」ところを「捕まえた」という同時進行の意味が表される。

8. おわりに

以上、『語学研究所論集』第 19-23 号(2014-2018 年)の「他動性」「連用修飾的複文」「情報構造と名詞述語文」「情報標示の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」といった 5 つの特集テーマに関するスワヒリ語のデータを示してきた。前半 14-18 号と同じように、教科書や文法書に書かれている表現のなかには、調査協力者が容認しないものや実際には使わないというものもあった。今回の調査でも、「標準スワヒリ語」だと思われているものにもバリエーションが見られることがわかった。

本稿をもって、『語学研究所論集』の 10 の特集テーマについてのデータを全て提供したことになるが、今後もこれらのテーマ以外のデータの提供ができるように類型論や対照研究を念頭において調査を行なっていきたい。

謝辞：本稿の執筆にあたり、調査にご協力いただいたコンサルタントの I・Z 氏に心より感謝申し上げます。また、匿名の査読者の方から有益なご指摘をいただき、本稿を完成に至らせることができました。ここに記して謝意を表します。なお、本稿における不備はすべて筆者の責任に帰するものです。

略語：

1SG, 2SG, 3SG: 一人称単数, 二人称単数, 三人称単数, 1PL, 3PL: 一人称複数, 三人称複数,
APPL: 適用形 applicative, CAUS: 使役形 causative, COM: 随伴 comitative, COMP: 補文標識 complementizer,
COMPL: 完了 2 completive, COND: 条件 conditional, CONJ: 接続詞 conjunction, CONS: 継起 consecutive,
EXT: 存在辞 existential, FV: 基本末尾辞 final vowel, FOC: 焦点 focus, HAB: 習慣 habitual, INTER: 疑問 interrogative, INTJ: 感嘆 interjection, IRR: 仮想形 irrealis, LOC: 場所 locative, OM: 目的語接辞 object marker,
POT: 可能形 potential, PRF: 完了 1 perfect, PRS: 現在 present, PST: 過去 past, RECP: 相互形 reciprocal,
REFL: 再帰接辞 reflexive, SBJV: 接続形末尾辞 subjunctive, SEP.INTR: 反転自動詞形 separative / reversion intransitive, SEP.TR: 反転他動詞形 separative / reversion transitive, SIML: 同時 simultaneous, SM: 主語接辞 subject marker, STT: 状態形 stative, TA: テンス・アスペクト tense and aspect.

参考文献

- Ashton, E. O. 1947. *Swahili Grammar (Including Intonation)*. 2nd ed. London: Longmans.
- Eberhard, David M., Gary F. Simons and Charles D. Fennig (eds.) 2022. *Ethnologue: Languages of the World*.
Twenty-fourth edition. Dallas: SIL International.
- Hammarström, Harald. 2019. An inventory of Bantu languages. In Mark Van de Velde, Koen Bostoen, Derek Nurse
and Gérard Philippson. *The Bantu Languages*. London/NY: Routledge. 17-78.
- Wilson, Peter M. 1985. *Simplified Swahili*. Harlow: Longman.
- Yoneda, Nobuko. 2024. 'Micro-variation of noun-modifying constructions in Bantu languages.' In: Marten, L., R.
Guérois, H. Gibson, and E. Bloom-Ström (eds.) *Morphosyntactic Variation in Bantu*. Oxford: Oxford
University Press. 53-75.
- _____. 2022. 'Noncausal/causal verb alternations in Swahili.' *Linguistique et Langues Africaines*.8(2)
<https://journals.openedition.org/lla/4561>
- _____. 2018. 'Noun-modifying constructions in Swahili and Japanese.' In: Pardeshi, Prashant and Taro Kageyama
(eds.) *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics* (Handbooks of Japanese language and linguistics 6).
Berlin: de Gruyter Mouton. 433-452.
- 今泉志奈子・藤縄康弘・米田信子・高橋美穂 2023. 状態変化動詞と事象の所有一経験主の語彙表示をめぐって―岸本秀樹・臼杵岳・于一楽(編)『構文形式と語彙情報』東京：開拓社. 280-303.
- 中島久. 2000. 『スワヒリ語文法』東京：大学書林.
- 米田信子. 2021. 「スワヒリ語における「関係節」と体言化」鄭聖汝・柴谷方良(編)『体言化理論と言語分析』吹田：大阪大学出版会. 429-458.
- _____. 2015. 「スワヒリ語における有対動詞：派生の形式と動詞の意味を中心に」パルテシ, プラシヤン
ト・ハイコ ナロック・桐生和幸(編)『有対動詞の通言語的研究』くろしお出版. 351-368.
- _____. 2014. 「バントゥ諸語における名詞修飾節の形式と意味」益岡隆志・大島資生・橋本修・堀江薫・
前田直子・丸山岳彦(編)『日本語複文構文の研究』東京：ひつじ書房. 617-643.
- _____. 2012 「スワヒリ語における2種類の関係節」*CLAVEL*, 2, 13-26.

執筆者連絡先：miyazaki.kumiko.hmt@osaka-u.ac.jp, yoneda.nobuko.hmt@osaka-u.ac.jp

原稿受理：2026年2月20日

刊行年月日：2026年3月31日